

泉科学技術振興財団10年の歩み

～財団の運営と事業活動～



財団法人 泉科学技術振興財団 創立10周年記念出版

泉科学技術振興財団10年の歩み

～財団の運営と事業活動～



財団法人 泉科学技術振興財団 創立10周年記念出版

～ 目 次 ～

1) 会長挨拶	1
2) 理事長挨拶	2
3) 財団関係者からのことば	3
4) 泉科学技術振興財団10年の歩み	9
記念写真	23

〈資 料〉

5) 役職者の推移	27
6) 研究助成一覧表	32
7) 研究会リーダー助成一覧表	49
8) 海外研究調査出張参加助成一覧表	54
9) 国際研究集會出張参加助成一覧表	56

会 長 挨拶

ハクスイテック株式会社取締役会長

泉 祐彰 (現 会長)

当財団は私の父が設立を思い立ち、多くの方々のご協力により設立されたものであります。父は昭和 10 年より化学品製造の仕事を始め 50 年以上にわたりこの分野で事業をしてまいりましたが、多くの方々のご支援に支えられ今日まで続ける事が出来ました。このご支援に感謝して、少しでも今後の日本の科学発展に寄与出来ればと 10 数年前にこの財団の設立を計画したのであります。ご承知のように昭和初めの日本の化学工業は揺籃期を脱して大きく発展を始めた時代であります。その時代の雰囲気の中で若い青年であった父がこの分野で仕事を始め、多くの研究・技術関係の人々のご支援を得て順次発展し、また戦後の混乱期を乗り越えて今日に至っております事は、この財団が出来あがって活動を開始した時、父にとって感無量のものがあつた事と思えます。設立当時並びに現在の顧問、理事、評議員の方々のお名前を拝見しますと、日本の官界・学会・経済界の重鎮並びに化学関係の素晴らしい研究者の方々に名前を連ねていただいております。父の幅広い人脈に感心しますとともに、この様な多くの方々に助けられて父が事業を継続する事が出来たのだと改めてこれら多くの方々に感謝いたしております。

早いもので当財団も設立後 10 年を経過しましたが、これを記念してこの 10 年間に当財団が助成をしてきました研究等に関し記録を残し、今後の当財団活動の参考にすると共に関連の方々にこの 10 年間の当財団の活動並びに世の中のこの分野における動きをご覧頂ければと考え 10 年誌を発刊する事になりました。ご一読いただければ幸いです。

設立しました父は設立 10 年を見ることなく平成 9 年 12 月に 86 歳で亡くなりましたが、その後皆様のご推薦を得て私が当財団の会長に就任し役員の方々と共に財団の運営に当たっております。理事長として鶴田禎二先生並びに常務理事として池田重良先生には財団として一番重要な「高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野」の研究課題に対する助成の決定に重要な役割をご担当頂き、更には財団の運営にも日々ご協力を頂いております。研究課題に対する助成の決定は当然理事会で行っておりますが、その選考に関しましては選考委員の方々に非常にご苦勞をお掛けしております。しかし、その甲斐ありまして研究者の間で当財団の活動も理解されてきており、助成の選考も公平であるとの評価が得られております事は、これらの先生方の真摯な選考によるものと考えます。当財団が今後も学問を目指す若い人たちの力に少しでもお役に立てれば望外の幸せです。皆様方の今後のご支援とご指導をお願い申し上げます。

理事長挨拶

東京大学名誉教授 鶴田 禎二（現理事長）

本財団が研究支援活動を開始したのは平成元年度でした。すでに10年前のことになります。当時の白水化学工業株式会社・代表取締役会長 泉正雄氏の「今まで科学技術から受けてきた恩恵をすこしでも社会へ還元するため、若手研究者たちへの研究支援をぜひ実現したい」との熱意が稔り、昭和63年12月、財団法人泉科学技術振興財団が設立されたのでした。助成の対象となる研究分野は「高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野」でありまして、財団発足以来、とくに新しい世紀において伸展の期待できる萌芽的研究の発掘に努めて参りました。

本財団発足後間のない1990年代初頭、世界は歴史的大変革を遂げました。ドイツ統一、湾岸戦争、ソ連邦消滅等、まさに疾風怒涛の年代でした。日本国内では1990年3月、株価の暴落が始まり、バブル景気も急速にはじけ長い経済不況が続くことになりました。泉正雄会長は、社会情勢の変化による財団運営の諸問題の解決と財政の安定化に献身され、お蔭様で本財団の研究支援活動は、この10年間順調に進展することができました。とくに本財団が、非常に公正な選考を行い、地味ではあるが着実な助成を続けている点において、その存在が斯界に広く知られてきましたことは、財団関係者としまして喜びに堪えないところでございます。

1995年度に成立した「科学技術基本法」に基づき、1996年度からは、「科学技術基本計画」が17兆円の国家予算で実施されつつあります。それに伴い「日の当たる分野」の研究者には潤沢な研究費を獲得する機会が増えたことは事実ですが、一方、大型研究費を受けにくい分野（あるいは性格）の研究に孜々として打ちこんでいる研究者も少なくありません。このように将来大変期待される萌芽研究を行っている若手研究者に対しましては、本財団は今後ともぜひ支援を続けさせて頂きたいと願っています。来るべき世紀は、更なる激動・変革が予想されます。本財団は時代の進展に応じ助成の在り方を順次改善し斯界のためお役に立ちたい思いを深めています。これが、10周年を待たず平成9年12月逝去された泉正雄会長の初心にお応えする道になると信じています。

今後とも関係各方面の皆様から、本財団に対しまして倍旧の御支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

〈財団関係者からのことば〉 (いろは順)

財団創設時の思い出

大阪大学名誉教授 河合 七雄 (元 理事)

池田先生から科学技術庁所管の財団を創るため協力して欲しいとのお話があったから、数ヶ月後に財団は発足しました。この異例の速さは、先ず梅沢邦臣先生、元ならびに現職の科学技術庁の方々による熱意のたまものでした。その熱意は、白水化学が立派な企業であったこと、そして当時も科技庁が材料の基礎研究の必要性を十分に認識されていたからです。

もうひとつ印象深いのは、鶴田先生が財団を育てようと快諾されたことです。私は鶴田先生が代表の文部省重点領域研究で6年間お世話になりました。その間先生は、このグループ研究の初心を頑固なまでに貫き通され、また真摯で公正な態度に感銘を受けました。その先生が財団の運営をお引き受け下さったことは、何よりも嬉しく感じております。

今、時代は大きく変わろうとしています。日本の基礎研究のあり方も変わらざるを得ません。当財団がその変化に対応して、優れた人を育てられると考えております。

思 い 出

元 科学技術庁無機材質研究所所長 田中 廣吉

(元 評議員)

一番強く感じた印象は、元泉正雄会長の真摯にしてしかも誠にご熱心な会に対する態度でございました。本当に財団を愛し、我が国産業界の発展に役立つよう希望されているご様子がよくうかがわれ非常に感激致しました。私も二三の科学技術財団の理事や評議員をやっておりますが、泉会長ほどのご熱心さには頭の下がる思いが致しました。

次に理事会、評議員会の皆様の“歯に衣を着せない”討議でした。大抵の会合では事務当局の原案をシャン・シャンと通して余り討論をしない例が多いのに、ここでは疑問の点はどんどん質問し、しかも非常に和気藹々たる雰囲気の中で誠に楽しいものでした。

第三は選考委員会の熱心さでした。多くの分野から多数のテーマを適切に選び、誠にご苦勞様でした。

以上、泉会長、鶴田理事長、池田常務理事、各委員の皆様の会合で東京から出席する私にとっては嬉しい会でした。

財団創立10周年を祝して

大阪大学名誉教授

帝塚山短期大学教授 池中 徳治（現 理事）

白水化学工業株式会社40周年の記念事業として、故泉正雄会長と白水化学工業株式会社からの寄附金を基に設立された本財団も創立10周年を迎え、目的とする諸事業も順調に発展し、我が国の材料科学技術振興に大きな役割を果たしていることを心からお祝い申し上げます。

私は、池田常務理事の推薦により、専門から少し離れているにも拘らず、本財団創立当時から評議員として、また平成7年5月から理事として財団の運営に参加させて頂いていますが、民主的で開放的な理事会・評議員会の運営の仕方、出席されている役員の熱心な討議には心から敬意を表しながら、その楽しい(?) 雰囲気を楽しむために出席するのを楽しみにしています。これも会長、理事長、常務理事のご努力、役員の方々のご盡力によるものと感謝しています。このような雰囲気で財団が運営されましたら、これからも本財団は益々発展すると信じています。本当におめでとうございます。

監事の立場から見た財団

ユニチカ(株)常任監査役 中辻 稔（現 監事）

泉科学技術振興財団は、白水化学という会社を中心に経済活動して資産を蓄積された泉正雄さんが、科学振興に寄与する目的で創られた財団であります。白水化学の会計監査を担当してきた縁で、監事に就任してまいりました。

企業経営に卓越した力量で成果を発揮された人は多くありますが、社会のために私財を提供される人は多くありません。泉正雄さんの経営から多くを学びましたが、科学発展に貢献するために私財を投じて財団を残された業績に対して尊敬しています。

財団は、その目的を達成するために基金から発生する果実を有効に社会に放出しなければなりません。そのためには理事に就任されている方々が、財団の目的を達成するために真摯な運営が必要です。その点、理事会に出席して理事に就任されている先生方の討議を拝聴していますと、若い後輩の研究者を育成することを、自分が研究に対処しているような姿勢で討議されている姿を拝見しています。

財団の基金は、科学技術庁が指示される範囲で運営しなければなりません。金利が低下した現状での運営は困難を伴いますが、事務局は叡智を発揮して、果実獲得に努力されています。

時 の 流 れ の 中 で

東京大学名誉教授

東京理科大学教授 黒田 晴雄 (現 評議員)

泉科学技術振興財団が創立10周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。物質・材料の研究に焦点を絞って研究助成をするところは本財団以外にはなく、その意味で本財団はわが国における物質・材料研究の育成に大きな貢献を果たしてきました。このような特色ある財団を設立された故泉正雄前会長に心から敬意を表したいと思います。

小生は設立当初から財団評議員を勤めさせて頂いてきましたが、その間に、わが国における科学技術の研究環境は大きく変化し、財団に期待されることも変わってきました。財団はこのような変化を的確に把握しつつ研究助成活動を展開しており、物質・材料研究の新しい芽の育成という面で、本財団に期待されるところは今後もますます大きいと思います。財団の一層の発展をお祈りする次第です。

創 立 1 0 周 年 に 寄 せ て

東北大学名誉教授

日本学術会議会員 増本 健 (現 理事)

本財団は「我が国の材料研究を一層発展させるために、先見性と創造性の豊かな独自の萌芽的研究を助成、育成する」ことを主旨として設立された財団ですが、当初から役員として参画させて頂き、この間、故泉正雄理事長の深い情熱に接することができたことは、私にとって大きな感銘でした。

「新しい材料は新しい技術と産業を生み出す」と言われ、20世紀は正しくこのような時代であり、現代の大量消費社会の形成をもたらしました。本来、材料を造り出す地球上の資源は有限ですから、この消費社会が21世紀へ継続することは困難です。また、地球の環境・エネルギーなどの問題とも大きく関わっています。従って、21世紀の材料研究は当然大きく変わらなければなりません。本財団が今後、材料研究の変革を促す若い研究者への助成を重点にすることが大切であり、今後も泉祐彰会長の下に我が国と国際社会へ大きく貢献されることを祈念しております。

思い出すこと

京都大学名誉教授

福井工業大学教授 作花 濟夫（現 評議員）

財団創立10周年、誠におめでとうございます。今日の益々盛んな活動に対して大きい声援をお送り致します。

さて、思い出すのは財団主催の講演会「相変化」です。私は「ゾルーゲル相変化」の部を企画させていただきました。泉正雄理事長の時代で、わが国の経済状態が良かったこともあります。財団の皆様の後押しで多額の予算をつけていただいた甲斐があって素晴らしい会になりました。講師の半分はゾルーゲルの専門家、あと半分は財団の助成を受けられた高分子、有機、無機の研究者にお願いし、また、アメリカとドイツから専門家をお招きすることができました。このことが幸いして、化学、電子、自動車、金属の企業から300人以上の出席者が関西大学の立派な会場を埋めつくすという盛況でした。わが国のゾルーゲル法を発展させ、また当財団の名前を印象づけるよいチャンスになりました。

所感～創立10周年を記念して

大阪大学名誉教授 塩川 二郎（現 理事）

泉正雄氏が心血を注いで設立された泉科学技術振興財団が10周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。私は財団創立時から役員の一員として財団運営に参画してきましたが、泉正雄理事長をはじめ役員一同の意欲的な志向と努力によって、創設の趣旨を貫いた活動が持続され、私は貴重な体験をさせて貰ったことを感謝している。ことに、若い研究者の萌芽的な研究の育成に、財団が貢献していることを大いに喜んでいる次第である。

今後とも、当財団が設立の精神を体し、より高い質を保ちながら活動をつづけていくことを念願するとともに、私も役員の一員として微力を盡したいと思っている。

一層の発展を期待して

京都大学名誉教授

福井県立大学教授 千田 貢（現 評議員）

泉科学技術振興財団創設10周年おめでとうございます。高度機能材料及びその関連分野の科学技術の振興、特に若い研究者の研究助成に力点を置いた貴財団の諸活動に改めて称賛と感謝の言葉を贈りたいと思います。筆者もまた、諸先輩の後に従って、その一端のお手伝いをさせていただき、また勉強もさせていただいたことに感謝し、また嬉しく思っています。ありがとうございました。

持続性ある産業社会の発展のためには科学技術の中断なき発展が不可欠であります。近年における複雑な構造体の原子または分子レベルでの解明～それらは時に超分子の言葉を冠して語られています～の、生命科学はじめ各方面における目覚ましい進歩は、高度機能材料とその関連分野の科学技術の進展に、新たな期待と興奮の時代の到来を予感させます。貴財団の更なる発展を願ってやみません。

随 感

東京大学名誉教授

日本大学教授 妹尾 学（現 評議員）

泉科学技術振興財団の創立10周年を迎え、本財団を創始された前理事長ならびにそのご遺志を確実に継承されておられる関係各位のご尽力に心からの敬意を表します。現在の形の自然科学は17～18世紀ヨーロッパにおいて生まれたと言われております。当時のサイエンスはキリスト教の神の啓示のもとに、人類に課せられた使命を全うしようとする強い意志によって形づくられていったと思われまます。科学が世界の福祉に役立つと信じられた故に、当時の支配者や知的指導者は科学技術の発展に力を尽くしました。この伝統が絶えることなく現在に続いていることを、本財団の活動の中に明らかにみることができます。ただ、現在が18～19世紀の啓蒙の時代と異なることに、科学に対する人々の信頼が必ずしもゆるぎないものではなくなったことがあります。今後、科学技術の発展が一層重要になることは言うまでもありませんが、本財団の活動が、今後の科学技術の正しい発展、それは人類の将来についての真の意味での叡智に導かれるものであると思いますが、そのような正しい発展を先導するため役立つものであってほしいと願っております。

これからの研究助成について

東北大学名誉教授 末高 治（現 評議員）

不況が長引くと共に、かつての高度経済成長の再現を望む声が聞こえるようになった。しかし、大量生産、大量消費による経済成長の再現は許されない。地球は有限だからである。20世紀における技術の発展は人間生活を豊かにしたが、その反面、いわば副作用として有害物質や廃棄物が地球の収容限度を超えて増加し、環境破壊が世界的に深刻な問題となってきた。このことは、これまで進めてきた科学・技術の研究の方向を調整する必要があることを意味する。すなわち21世紀の研究では、新奇な或いは卓越した性能を持つ物質や装置の創出に専念するのではなく、同時にそのものに付随する副作用への対応も考慮しなければならないのである。本財団に助成を申請された研究の選考に当たっては、このような地球に対する研究者の責任を自覚したものを有利に取扱うようにしては如何であろうか。

＜財団法人 泉科学技術振興財団 10年の歩み＞

1) 財団の設立

設立の趣意

財団法人泉科学技術振興財団は科学技術庁管轄の公益法人団体として、我が国の科学技術の基礎的研究の増強発展に寄与することを目的として設立された。

今から 10 年前、白水化学工業株式会社(現在 ハクスイテック株式会社に改名)の創始者である故泉正雄氏が、それまで多くの科学技術の研究の成果の恩恵を受けてきたことを考え、それによって得た利益の還元を意図して、白水化学工業株式会社創立 40 周年の記念事業として、『高度機能性材料およびこれに関する科学技術分野における研究およびそれに必要な国際交流への助成』を目的とした科学技術振興財団の設立を決意し、そしてその趣意に基づいて、泉正雄氏個人と白水化学工業株式会社の寄付によって、昭和 63 年 12 月 15 日に科学技術庁の管轄のもとに本財団が設立されたのである。その設立の趣意は次の通りである。

設立趣意書

我が国の科学技術の進歩は日本の経済の諸発展に大きな役割を果たしてきている。その科学技術は国際的水準に達し、分野によっては世界をリードするまでに至った。しかしながら、我が国独自の独創的研究は、まだ十分満足すべき段階に至っていないと言われている。21世紀に向かって、我が国の発展と国際社会への貢献を期するためには、ブレークスルーを生み出す、独自の科学技術を創造することが何よりも重要な課題である。

多くの科学技術は、用いる材料の機能によって一層優れた成果を発揮する 경우가多い。言い換えれば、材料関連分野は多くの科学技術の基盤を形成し、その材料の種類と機能は極めて多岐にわたり、ますますその発展を見せつつある。これらを先導する新しい基盤技術～機能性物質材料～の創成は、様々な分野の研究成果を背景とし、長期にわたる研究開発を必要とするリスクの大きい課題であるために、その基盤の充実には産学官の連携を図りつつ積極的な対応を図る必要がある。

言うまでもなく、我が国は産学官を挙げて材料の研究開発に努力を傾け、大きい成果を得てきた。しかし、国際的水準に達した材料研究を更に発展させるためには、将来を展望した先見性と創造性の豊かな独自の萌芽的研究を援助・育成し、その成果を通じて国際交流を図り、我が国及び国際社会に貢献することが、我々に課された任務である。

白水化学工業株式会社は創立以来、材料の製造を中心として、新しい製品の開発に心血を注ぎ、大きな業績を挙げてきた。これは、我が国における多くの研究者の材料

に関する基礎から応用までの研究の成果の賜物であり、これらの研究の恩恵を受けた者として、今こそその利益を社会に還元する時であり、またそうすることが大きな責務であるとの考えのもとに本財団の設立が企画された。

以上の主旨に基づき、白水化学工業株式会社の40周年の記念事業として、先見のかつ創造的な材料科学技術振興の一助となるべく「高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野における研究及びそれに必要な国際交流への助成等」を目的とした財団法人 泉科学技術振興財団を設立し、材料関連分野に関する研究開発の振興を図り、もって社会経済の発展に寄与したい。

設立財団の概要

設 立 年 月： 昭和63年12月15日

所 管 課： 科学技術庁研究開発局総合研究課材料開発推進室

代 表 者： 理事長 泉 正雄

所 在 地： 大阪府大阪市大淀区(現在 北区)豊崎3丁目9番7号

設立基本財産： 530,000,000円

事業の目的： 高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野における先見のかつ創造的な研究者への研究助成および国際交流への助成等を行い、もって社会経済の発展に寄与することを目的とする。

事業内容：

- ① 研究に対する助成
- ② 研究のための国際交流に対する助成
- ③ すぐれた業績に対する表彰
- ④ 科学技術の普及啓発
- ⑤ その他必要な事項

役員の構成

顧問： 梅澤 邦臣 (元) 科学技術庁事務次官
吉田科学技術財団理事長
(財) 原子力安全技術センター理事長

若槻 哲雄 大阪大学名誉教授
(元) 大阪大学総長
大阪府教育委員会委員長

石川 忠雄 慶応義塾大学塾長
慶應義塾大学理事長、学長

理事： 泉 正雄 (理事長) 安部川 澄夫
白水化学工業 (株) 代表取締役会長 (株) 大和銀行頭取

池田 重良 石原 健三
大阪大学名誉教授 石原産業 (株) 取締役会長
龍谷大学理工学研究所教授

大野 豊 小川 雅彌
京都大学名誉教授 関西大学工学部教授
甲子園大学教授

(財) 京都高度技術研究所所長

奥野 巖 河合 七雄
白水化学工業 (株) 取締役社長 大阪大学産業科学研究所教授
ヘンケル白水 (株) 代表取締役会長

後藤 優 塩川 二郎
新技術開発事業団専務理事 大阪大学名誉教授
近畿大学理工学部教授

鶴田 禎二 福井 三郎
東京大学名誉教授 京都大学名誉教授
東京理科大学工学部教授

監事： 小島 信勝 中辻 稔
弁護士 公認会計士
(元) 広島高等検察庁検事長 サンワ・等松青木監査法人地区代表

評議員： 荒木 透

日本科学技術情報センター監事
(元) 科学技術庁金属材料技術研究所長

黒田 晴雄

東京大学理学部教授

神野 博

京都大学工学部教授

高松 武一郎

京都大学名誉教授

関西大学工学部教授

立花 精

立命館大学名誉教授

増本 健

東北大学金属材料研究所教授

池中 徳治

大阪大学理学部教授

作花 済夫

京都大学化学研究教授

高橋 満直

白水化学工業(株)取締役

竹本 喜一

大阪大学工学部教授

田中 廣吉

(元) 科学技術庁
無機材質研究所長

選考委員：池田 重良

大阪大学名誉教授

龍谷大学理工学研究所教授

伊藤 龍象

大阪大学基礎工学部教授

小田 雅司

大阪大学理学部教授

末高 洽

東北大学名誉教授

千田 貢

京都大学農学部教授

石橋 信彦

九州大学工学部教授

井上 祥平

東京大学工学部教授

木村 茂行

科学技術庁無機材質研究所
総合研究官

妹尾 学

東京大学生産技術研究所教授

新居 和嘉

科学技術庁金属材料技術研究所
科学研究官

事務局

事務局長： 中塚 豪朗

常勤職員： 下田 幹子

2) 財団 10 年の歩み

2-1 財団の運営事業

本財団は昭和 63 年 12 月 15 日に発足した。明けて 1 月、我が国にとっては明治と並んで大きな変動の歴史を綴ってきた昭和の時代は終焉し、世は平成の年代に入った。このあわただしい時代の、そして年度末のこともあって、申請手続きが少しでも遅れたら、おそらく財団設立の認可は大分遅れたことであろう。まさにその出発からして運に恵まれていたというと先端的科学技術の振興を目指している財団にふさわしくない発言と叱責を買わぬでもないが、十年の歩みをたどるに当たり、改めて財団創設に尽くされた方々の苦勞を思い起こしつつ、歩を進めることとする。

第 1 回理事会は財団設立が認可後すぐの、昭和 63 年 12 月 21 日に大阪ロイヤルホテルで開催された。理事会発足にあたって、まず出席理事相互の自己紹介を行った後、互選によって議長として鶴田禎二氏を選出した。そして議長の運営のもとに議事が進められ、初めに理事長ならびに常務理事の選出が行われ、理事長に泉正雄氏、常務理事に池田重良氏が選出された。さらに議長は顧問として梅沢邦臣氏、若槻哲雄氏並びに石川忠雄氏の 3 氏の推薦について諮られた。そして理事全員一致でこれを承認した。これに引き続いて評議員ならびに選考委員が選出され、これに加えて、事務局の組織ならびに人事に関する事項が審議決定された。こうして、新発足の財団の陣容が整ったわけである。

次いで財団運営を遂行するに当たって必要である、公益増進法人証明書交付申請の件ならびに財団諸規定制定の審議に入り、理事長提案の議案について逐次審議されたが、議長の意見に基づいて、規定の実施にあたり実情にそぐわない点が発生した場合は順次修正を行うことを条件として、全員一致で可決された。

初年度事業実施に関しては、昭和 63 年 12 月 15 日から昭和 64 年 3 月 31 日までの期間を昭和 63 年度としたが、規定に基づき、それ以後毎年 4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日までを各事業年度並びに会計年度とすることが承認され、昭和 63 年度については発起人会作成案の事業計画ならびに収支予算案の特別の案が提出されて審議され、提案通り承認された。そして昭和 64 年度以降については設立認可書添付の年度計画に基づき実施することとした。昭和 63 年度は期間が極めて短いので執行事業も時間的に許される範囲に留め、初年度内に諸規定の補足充実、研究助成公募の手続きや書式の最適様式の設定に努め、次年度からの準備に備えることとなった。しかし、昭和 64 年度計画については本理事会で決定する必要があるので審議が行われたが、理事長より次回は東京で開き、それに続いて顧問、理事、評議員ならびに選考委員全員の出席のもとに財団の創立を祝賀する会を開く案が提出された。そして全員意義なくこれを承認した。

第2回理事会は年号の改まった平成元年3月17日、東京のパレスホテルで開かれた。この日は第1回評議員会も執行された。実際には審議内容も重複することが多いので理事会・評議員会の合同の会議として鶴田理事を議長に選び、顧問、理事並びに評議員の出席のもとに提出議題の審議が行われた。

審議内容は設立初年度の事業計画に基づき、第1回助成事業の実施の承認を行い、引き続いて平成元年度の財団の事業計画ならびに予算に関する審議を行い、これを承認した。なお設立以降まだ日も浅く、財団の運営に関する規約、諸手続きの様式、助成の募集要領等の不備な点について、議長から委員の方々に発言を要請され、いろいろと意見の交換が行われたが、今後実情に添わない点については順次修正し、主務官庁と折衝調整の上、充実した体制に改めていくことが確認された。

規定によって、本財団の主務事項である各種研究助成候補者の選考は、毎事業年度の前期に多く行われる。これに伴ってその選考結果を理事会ならびに評議員会で審議し承認を得る必要がある。このため今後8～9月に臨時理事会ならびに臨時評議員会を開く案が承認された。これと3月における年度末事業並びに収支決算の承認に関する本会議、および5月末の会計報告承認のための本会議をあわせて、都合3回毎年度理事会と評議員会を開くこととなった。このようにして盛り沢山の審議が進められて、財団はいよいよ本格的な事業活動に入っていった。

当日は理事会ならびに評議員会に引き続いて、選考委員も加わって、ささやかな式典を開き、改めて本財団の設立を祝うと共に、その創設の趣旨に適う、我が国の科学技術振興助成の道への旅立ちを互いに確認しあったのである。

主務官庁の適切な指導と顧問の方々の有益な助言によって、設立趣意書提出から短期間で設立が認可されて充足した財団の運営は、当時の社会情勢の科学技術重視の追い風の中、極めて順調な旅立ちであった。しかし財団が長期に亘って安定した運営と活動を続けるため、すなわち、財産の独立性・永続性と内容の充実を計るためには創設当初の基本財産では、必ずしも充分とはいえないので、財団創設者である泉正雄氏ならびに白水化学工業株式会社（現ハクスイテック株式会社）から、引き続いて合わせて5億円の寄附がなされた。これを受けて平成元年度の理事会ならびに評議員会において、これを財団の基本財産に組み入れることに決定した。これによって財団の基本財産は10億円となった。こうした安定した財政の下に、そして財産の業務体制の整備に準じて業務の主体である研究助成関連の応募受け入れ大学・研究機関も次第に拡がっていった。また、理事会並びに評議員会においても、極めて順調に事業計画が審議決定されていった。

財団を挙げての大きな行事としては平成2年度に行われた『第1回泉フォーラム』ならびに平成4年度に開かれた『第2回泉フォーラム』がある。この2つのフォーラムについては「研究助成の歩み」の項において詳述することとする。

研究助成事業については別項で記述されているように年を追って各種の助成とも応募件数も増加して、選考委員には精神的にも肉体的にも著しい負担がかかるようになったが、この状態は現在も変わらない。しかし、選考の厳格さ、公平さ、そして純粹さは財団の品位の評価にかかわる最も尊重すべきことである事を認識されて、選考委員は負担の荷重に耐えて本財団の趣旨に添うべく努力されてこられた。

時の刻みは十年一日の如く変わらないが、歴史の刻みはあるときは長く、あるときは瞬時にして過ぎていく。自然科学においても時は相対的である。

一見極めて平穏な日々に見える財団の運営も、実態は世の潮流に翻弄されそうになる不安な時代に遭遇したこともあった。これはどの財団もそうであった。平成4年の頃から世間は騒がしくなってきた。日本経済の破綻、所謂バブルの崩壊である。このことが直接財団の運営に影響することは無かったが、基本財産の運用を基として事業を遂行している財団にとっては将来の運営に大きな不安材料となった。理事長ならびに事務当局が、常にこの実社会の実情を把握し、これの影響が財団に強く当たることがないようにたゆまず情報収集や対外折衝に身をこなし、財産運営の健全化に努力された事によって、他にみられたような事業の縮小に迫られることもなく、現状を維持することが出来たことは幸いであった。

財団の資産については、平成2年に泉正雄氏ならびに白水化学工業株式会社から基金増額の寄附があった後、平成10年に泉正雄氏死去の後、遺族から計1億3000万円の寄附ならびに他の方からの寄附もあり、現在の基本財産は12億円となっている。

財団創設以来、事務局の住所は一度替わったが、平成10年4月、再び創立当初と同一の住所に戻った。それまでに事務局長も4名の交代があった。なおこの10年間に退任された理事、評議員および選考委員の方々ならびに新たに就任されたの方々のご氏名も別に列記させて頂いたが、顧問の若槻哲雄先生が平成5年4月2日に、選考委員をされておられた石橋信彦先生が平成3年8月30日に、評議員の神野博先生が平成9年2月21日に、そして同年12月5日に選考委員の荒井弘通先生が、それぞれご在任中にご逝去された。また、財団設立当初から平成7年3月まで理事としてお勤めいただいた福井三郎先生が平成10年1月11日にご逝去された。ここに改めて、ご在任中の本財団の運営にご協力いただいたことについて厚く御礼申し上げますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

初代会長兼理事長の逝去： 本財団は創設以来ここに10年、時に世の風の荒きに遭うことはあっても、目標としている我が国の科学技術振興の支援事業に関しては、かたくなまでに本筋を守って順調な歩みを続けてきたが、創設10周年の記念の年を前にして、創設者であり理事長である泉正雄が逝去された。泉理事長は創設以来、直接陣頭の指揮をとられ、その後体調を崩されてからも逝去されるまで職務を続けられていたが、平成9年12月27日逝去された。享年84歳であった。平成10年3月

26日には、本財団関係者一同による「故泉正雄氏を偲ぶ会」を催して、故理事長の在りし日を偲んだ。

新会長ならびに新理事長の就任：平成10年1月20日、第13回臨時評議員会を開催し、泉祐彰氏を新理事として推薦し、平成10年3月、第20回通常理事会並びに第19回通常評議員会で理事長として鶴田禎二理事が選ばれ、会長としては、泉祐彰理事が選出された。こうして創設10周年を機に財団は、新会長並びに新理事長のもとに、財団設立の趣意を体して、日本の科学技術振興支援の道をたゆむことなく歩みつづけていくこととなった。

2-2 研究助成事業

本財団の事業はその趣意書に掲げてあるように、我が国における『高度機能性材料及びこれに関する科学技術分野における研究ならびにそれに必要な国際交流への助成』であるが、その事業内容は2科目4種類に分類されている。すなわち、「研究助成費」の科目は「研究助成」と「研究会リーダー助成」の2種類に分かれ、「国際交流等助成費」の科目は、「海外研究調査出張参加助成」と「国際研究集会出張参加助成」の2種類に分かれて助成活動が実施されて来ている。

本財団運営の経済的基盤については別に記すところであるが、財団創立の当初からの10年の間、世界の情勢は、いろいろな面で大きな変動を繰り返してきた。特にその後半の時代において我が国の経済事情が激変し、所謂バブルの崩壊は本財団の財政にもその影響が大きかった。しかし、科学技術の研究活動は科学立国を目指している我が国として一日たりともないがしろにすることは許されないという創立者の理念を尊重して、関係者一丸となって健全な運営の維持に力を尽くし、10周期を迎えることができて今日に至っている。

以下に上記項目各分野の助成活動の経過について述べることにする。

1) 研究助成：

大学またはそれに準ずる研究機関に所属していて、高度の機能性材料の開発あるいはそれに関連する科学技術の開発を目指す独創的な研究を支援するための制度である。創立10周年である平成10年までの助成件数は212件に達している。年間当たりの助成採択件数は15件～29件であるが、これに対する応募件数は発足当初は50件が、第2回83件、第3回91件と急激に増加し、最高180件に及び、このような状態が長く続いた。最近になって科学技術基本法も発布されて我が国も国を挙げての科学技術の基礎研究重視の気運が高まり、文部省をはじめ、関係各省における研究助成制度

が拡がり、これらに応募する機会が多くなって来ている傾向であるが、それでも本財団への応募数は以前より減少したとはいえ、依然として多く厳しい採択率となっている。本財団の特色とする処は助成希望研究者が、大学・研究機関あるいは、学会等における予備的な選考を経ることなく応募内容に十分な理解を持つ第三者の推薦ならびに所属機関の責任者の承認があれば、直接応募申請できることである。これは、このため応募件数は多いが、どんな小さな大学や研究機関、新しい大学あるいは研究機関の研究者であっても、それが独創的あるいは萌芽的研究でさえあれば、全く対等の場で審査選考したいという選考委員の意見を尊重して規則が定まったことを敢えて記録に留めることとする。

振り返ってみると、発足以来研究助成を受けられた方々の氏名の中には、当時はまだそれ程名も知られていなかった若手研究者であったのが、現在では、それぞれの関係する学会で我が国を代表する著名な方となられたり、また国内或いは国際的に重要な役割を果たして居られる方も少なくない。これは、その研究助成者の選考が極めて当を得たものであって、本財団の目的に適うものであったと言えよう。しかし一方で、財団の心願を理解できず、助成金を申請書と全く方向違いに使用された研究者もおられて、中では海外出張にその大部分を使用された方もおられた。これは概ね研究費の豊かな大きい大学の方に見られた。選考委員会としてはその選考が適当でなかったと反省する必要があるが、しかしこのような件は極めて少なかった。

研究助成の成果については、報告後既に 10 年近くを経たものも多いが、その研究内容の中には未だに非常に参考となるものがあり、中でも当時萌芽的研究として注目されたものが現在において豊かに実っているものも少なくないので、本財団創立 10 周年を記念してこれを研究報告集としてまとめて出版することとした。報告集は 2 冊となり、総頁数は 1524 ページとなった。なお、本誌の資料編に各年度における採用研究をまとめて列記した。中には研究成果報告提出後も、関連した研究の成果の論文別刷りの送付を今も続けている研究者もおられる。

2) 研究会リーダー助成：

高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野における国際的ワークショップ等のグループ研究会のリーダーに対して、研究会開催を支援することを目的として実施する助成制度である。このような名の研究支援制度は他には見られない。類似の助成の多くは、国内で開かれようとする大きな国際学会への支援を目的とされている。

本財団では世界の自然観を揺り動かし、パラダイムの転換を促すような研究もその初めは小さな本当に独創的な研究から萌芽していくことを重く観て、規模があまり大きくないが特定の課題について絞り、深く掘り下げていくために国の内外に呼びかけ

て研究会を開きたいという研究者を支援することを目標に置いたのである。

ワークショップという名称は本財団創立のころはまだ新しく、耳慣れない言葉であったが、既に海外では広まってきており我が国でもその風潮ができてきた。助成の対象とする研究会の在り方、性格等には明確な規準を設けるのは当時としては未だ困難であったが、大きな国際会議と比べて国際的な会議でも小規模な場合は、経済的支援も得がたい事情も加味して、特色ある研究支援方式として活発に利用されて今日に至っている。

現在ではワークショップという用語は広く普及しており、多様に利用されている傾向が現れてきている。

この中で特に財団自らが主体となってワークショップを催し、リーダーを指名依頼して実施したのが、平成2年11月20日～22日、滋賀県大津市にある滋賀県立近代美術館で開かれたワークショップ「生体要素と人工材料の超ハイブリッド化」と、平成4年11月、関西大学100周年記念会館で開かれた「相転移の科学と先端材料科学技術」である。この2つは泉フォーラムとして計画され実施されたが、以下にこの2つのフォーラムについて少し詳しく述べることにする。

第1回泉フォーラム：財団創立に際しての披露に代えて、その記念として開かれたものである。京都大学の砂本順三教授が研究会リーダーとなられて23名の招待講演者を含めて全員90名の人数に制限して3日間の会期で、

- 1) 生体要素と人工材料との超ハイブリッド化が可能な人工材料の物性・構造特性及び機能評価
- 2) 無機材料と生体要素とのハイブリッド化
- 3) 有機材料と生体要素とのハイブリッド化

の3つの視点から、従来の既成概念を超えて生体要素と人工材料とを融合化、あるいは混成化する方法論、機能評価ならびに応用に関する討論が展開された。

会場は近代美術館の好意によって全く無料で貸与された。時あたかも秋の盛り、紅葉に包まれた小高い丘の上という素晴らしい立地の中で、ホールから一步出れば滋賀県ご出身の小倉遊亀画伯の作品をはじめ国の内外のいろいろの名画が展示されており、疲れた頭を癒してくれ、外国からの参加者も日本の秋を十分に楽しみつつの討論に満足のような様子であった。

本ワークショップの主題となった課題は10年を経た現在において、科学技術研究の先端的重点課題のひとつとして、全世界的に活発な研究が広がって来ている。まさに本研究会はその先駆的役割を果たした訳である。

.....
泉会長あいさつ文（英文並びに和文）

Welcome Address

Professor Sunamoto, distinguished invited speakers and all participants! On behalf of The Izumi Science and Technology Foundation, I would like to extend a warm sincere welcome to all of you who attend the First Izumi Forum, "The international workshop on suprahybridization between biocomponents and artificial materials." My special gratitude is focussed on the invited guests from foreign countries. Thank you very much for your coming here and joining us.

I am not a scientist myself, but I have heard that the word "matter" is the same with the word "mother" in etymological sence in Latin. Yes, the matter — the material is the mother of everything and every phenomenon which we see in nature. If you want to know something in nature, you have to understand material that may concern.

Today, the word "High Technology" is widely used in this country. But no new technology may be born without the development of the fundamental researches. I certainly recognize that creative basic research in science and technology are indispensable for the welfare and prosperity of humankind.

The Izumi Science and Technology Foundation was founded in 1988 for the promotion and enhancement of the creative basic researches mainly in the field of materials science. Although I am not a scientist, I know biological materials are the highest scientific works and the most beautiful arts created by nature, in their functions, activities and systems.

Now that scientists are making their travel to approach the Arts of the Absolute as close as possible, Professor Sunamoto timely planned and organized the workshop on "Suprahybridization between biocomponents and artificial materials." This is really a best-fit subject and memorable for the first forum of the Izumi Science and Technology Foundation that is going to extend its project to support creative works in this country to the last decade of 20th century and further to 21st century.

We are deeply indebted to professor Sunamoto and his associates who have devoted themselves to an enormous amount of time and efforts for making this particular workshops. Thank you very much. Also, I would like to extend my gratitude to Mr. T. Yoshikawa, Director of this Museum and Mrs. Y. Nakano, head of Exhibition Project Division of the Museum for their kindness to allow us to use this beautiful Museum, with no charge.

Finally, I sincerely hope the success of this workshop and that all of you participants will bring the fruitful scientific souvenir back to each of your own workshops.

Thank you for your attention.

Masao Izumi
Director General
Izumi Science and
Technology Foundation

.....

開 会 ・ 祝 辞

砂本先生、権威ある招待講演者の方々、ならびにご出席の皆様 第1回泉フォーラム「生体構成体と人工材料の高度混成に関するワークショップ」によるお出で下さいました。私は泉科学技術振興財団を代表して心より歓迎申し上げます。特に外国からお越しの方には遠いところをご参加頂きありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

私は科学者ではありませんが、聞くところによると、英語の“matter (物質)”という語に相当するラテン語は、英語で言う“mother(母)”に相当する語と同意義の語源であるということですが、まさにその通りだと思います。物質は大自然に私達が遭遇するすべてのもの、すべての現象の母と言ってよいでしょう。もし、自然について何か語ろうと思えば、まずそれにかかわっている物質のことを理解していなければなりません。

さて、現今この国では“ハイテクノロジー”という言葉がはやっております。しかし、基礎的な研究の発展なくしては真の新しい技術は生まれて来ません。私は創造的な科学技術における基礎研究が、人類の幸福と繁栄に欠くべからざるものと確信しております。

泉科学技術振興財団は、1988年に主に物質科学の分野における創造的な、基礎的な研究を促進させることを目的として設立されました。

私は科学者ではありませんが、生体構成物質は、その機能といい、活動といい、またその組織といい、大自然の創造物として最高の作品であり、最も美しい芸術品であると考えております。

科学者の方々がこの絶対者一神の芸術品に、少しでも近づこうと旅をしている、まさにこのときに当たって、砂本先生はいみじくも“生体構成体と人工材料との高度混成”と題するワークショップを計画され組織されたわけです。これは20世紀のこのあとの10年間、さらには21世紀に向けて、ますます創造的な基礎研究の支援と推進に邁進しようとしている、我が泉科学技術振興財団の第1回フォーラムに極めてふさわしく、まさに記念すべき主題であります。

私達は砂本先生、ならびにその協同者の方々に大変お世話になりました。先生方は、このフォーラムのために大変なお時間と努力を費やされました。重ねて心から御礼申し上げます次第であります。

また私は、ここに美術館館長吉川氏、ならびに中野総務課長様にこの美しい美術館を本フォーラムのために快く、しかも無償で使うことをお許し下さいましたことを、厚く御礼申し上げます次第でございます。

最後にご出席の皆様方全てが実りある科学のお土産を、それぞれのワークショップ、すなわちご研究の場にお持ち帰り下さるよう、心より希望する次第でございます。

ご静聴ありがとうございました。

財団法人 泉科学技術振興財団
理 事 長 泉 正 雄

.....

第2回泉フォーラム：平成4年11月に催された「第2回泉フォーラム」は創立3周年を記念するもので、先のフォーラムよりも記念式典的な行事を含めて行われた。主題を「相転移の科学と先端科学技術」と名付けて、第1日目に創立3周年記念式典ならびに基調講演会が、第2日目に「ゾルゲルの世界と材料科学」と題したワークショップが開催された。

記念式典に続いた基調講演では3名の講師の講演が行われた。初めに講演された金森大阪大学学長は主題の「相転移の科学」のなかで材料としては磁性材料を対象とされたが、その内容は深く、まず物理学の新潮流としての集団の物理学と相転移の係わり合いについて解説され、次に相転移を作り出す協力現象を、続いて秩序状態への転移の意味について一般的な見方を説明された。そしてそこから生まれる自然観への転換、言い替えると昔からある決定論的な考え方からの脱却を示唆された。いろいろな相転移の例を示され、最後に磁性材料の分野の最近の話題に触れられた。続いての演者の増本健東北大学金属材料研究所所長（本財団理事）は「非晶質・準安定相材料の科学と未来技術」という表題のもとに、教授自らが我が国で初めて研究を開始され、世界のトップランナーとして発明され、開発を進めてこられた新材料を中心に、実例を示して相転移の創発性と自然に潜む可能性について、夢のある講演をされた。

高温超伝導酸化物の発見は、上述の非晶質の材料と同様にまさに、自然の創発的相転移の産物である。その発見は世を賑わせているが、基調講演の最後を飾られた笹木和雄東京大学名誉教授は、現在の高温超伝導体の種類とその特色についてご紹介され、ついで超伝導機構解明に触れられて、高温超伝導を支配する要因について基礎的研究の成果を例をもって示された。そして最後に実用材料化技術についてまとめられた。

フォーラム第2日目のワークショップ「ゾルゲルの世界と材料科学」は南務大阪府立大学教授がリーダーとなって作花濟夫京都大学教授（本財団評議員）と共同で組織された研究会で、講演者15名がゾルゲルの前駆材料、相転移プロセス、その機構、そして機能性材料の発現など多様なゾルゲル相転移の生む可能性の世界を見せてくれた。これらの講演は創立3周年を記念して公開登録としたので、一時は300名近くの参加者となった。

相転移は金森教授が基調講演で述べられたように、決定論的古典力学の世界観から非決定論的世界観への新しい科学の課題であると言えよう。それは古い歴史を持った言葉であるが、自然の進化につながる深い意味を持っている。温故知新、いま複雑系の科学という言葉が世を賑わせてきている。自然のしくみの理解から営みの探求へと、来るべき21世紀はまさに相転移の科学の満開時代となるう。

3) 海外研究調査出張参加助成：

国外の機関に短期間出張（3 ヶ月以内）して、機能性材料科学に関係のある調査研究或いは共同研究を実施することを支援する制度である。主として共同研究実験に対する支援が実施されたが、その数は期待していたほど多くはなかった。また、本制度を留学のための支援制度と取り違えた申請者も少なくなかった。しかし、少数とはいえ本制度を利用して海外研究機関において、日本国内で実施困難な実験に成功して立派な成果を挙げられてこられた研究者もおられた。しかし国内研究の発展・充実に伴って応募者も減少してきたので、時代の変化に合わせて10周年を機として本制度の見直しをすることになった。

4) 国際研究集會出張参加助成：

国外で実施される、機能性材料科学に関係ある国際会議、研究集會に参加して、座長等の役を務めたり、研究成果の発表をするために必要な旅費を助成する制度である。本制度開設の当初は必要旅費の全額を支援すべく、助成決定者の数を少なくして高額の援助を行っていたが、海外渡航費の低廉化に対応して額を切り下げ、その分採択件数の増加を計る等、時々の実情を考慮しつつ助成を行ってきた。この10年間の後半に見られた厳しい経済的不況のなかでも多少の減額はあったが、採択件数を余り減らすことなく本制度は続けることができ、我が国の科学技術研究の海外発信への支援を行ってきた。平成10年度までの助成者の総数は164名である。



第2回理事会・第1回評議員会 於 東京パレスホテル 平成元年3月17日

後列左より

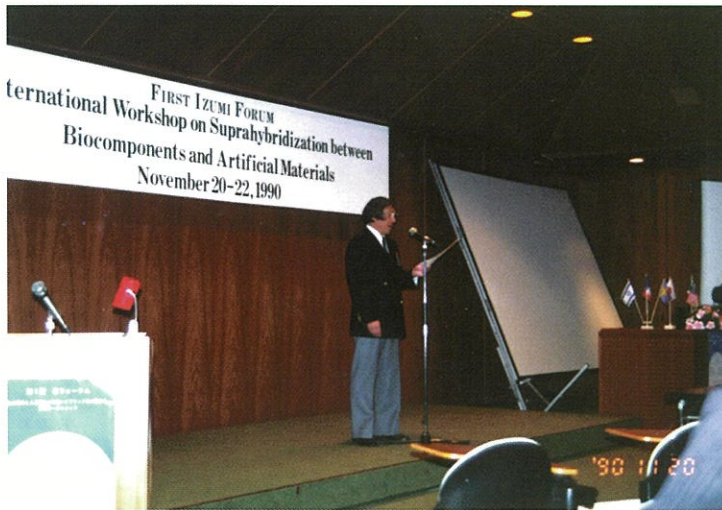
池田常務理事、高橋評議員、小蔦監事、中辻監事、井上選考委員、石橋選考委員、小田選考委員、木村選考委員

中列左より

奥野理事、大野理事、石原理事、作花評議員、池中評議員、黒田評議員、後藤評議員、新居選考委員

前列左より

高松評議員、荒木評議員、福井理事、石川顧問、泉理事長、梅澤顧問、鶴田理事、田中評議員、干場室長、瀬高所長



第1回 泉フォーラムより
平成2年11月20日～22日
於 滋賀県立近代美術館

砂本順三
ワークショップリーダー
開会挨拶



会場風景



3周年記念式典 平成4年11月26日 於 関西大学100周年記念会館



式典挨拶 鶴田理事

基調講演会



基調講演者
増本東北大学金属材料研究所長



基調講演者
金森大阪大学総長

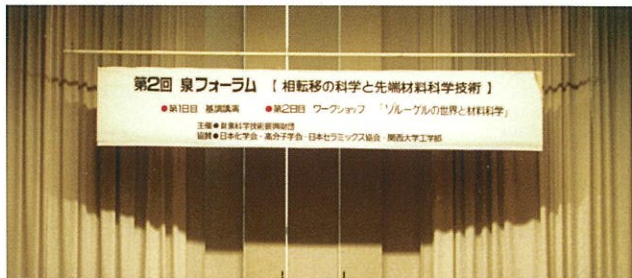


基調講演者
笹木東京大学名誉教授

講演会場



第2回 泉フォーラムより
平成4年11月26日～27日
於 関西大学100周年記念会館



作花評議員挨拶



ワークショップリーダー 南教授講演

会場風景



〈資料〉

役職者の推移

1. ご逝去された方々

役職名	氏名	所属(就任時)	在任期間
顧問	若槻 哲雄	大阪大学名誉教授・元大阪大学総長・ 大阪府教育委員会委員長	昭和63年12月15日～ 平成5年4月2日 (ご逝去)
理事長	泉 正雄	白水化学工業(株)代表取締役会長	昭和63年12月15日～ 平成9年12月27日 (ご逝去)
理事	福井 三郎	京都大学名誉教授	昭和63年12月15日～ 平成7年3月31日 (平成10年1月11日 ご逝去)
評議員	神野 博	京都大学工学部教授	昭和63年12月15日～ 平成9年2月21日 (ご逝去)
選考委員	石橋 信彦	九州大学工学部教授	昭和63年12月15日～ 平成3年8月30日 (ご逝去)
選考委員	荒井 弘通	九州大学総合理工学部教授	平成4年4月1日～ 平成9年12月5日 (ご逝去)

2. 退任役員

(2-1) 理事会関係

役職名	氏名	所属(就任時)	在任期間
理事	安部川澄夫	(株)大和銀行頭取	昭和63年12月15日～ 平成7年11月3日
理事	石原健三	石原産業(株)取締役会長	昭和63年12月15日～ 平成11年3月31日
理事	大野豊	京都大学名誉教授・甲子園大学教授・ (財)京都高度技術研究所所長	昭和63年12月15日～ 平成7年3月31日
理事	小川雅彌	関西大学工学部教授	昭和63年12月15日～ 平成3年3月31日
理事	河合七雄	大阪大学産業科学研究所教授	昭和63年12月15日～ 平成11年3月31日
理事	後藤優	新技術開発事業団専務理事	昭和63年12月15日～ 平成5年3月31日
理事 監事	奥野巖	白水化学工業(株)取締役社長・ ヘンケル白水(株)代表取締役会長	昭和63年12月15日～ 平成3年3月31日 平成3年4月1日～ 平成5年3月31日
監事	小寫信勝	弁護士・(元)広島高等検察庁検事長	昭和63年12月15日～ 平成3年3月31日

(2-2) 評議員会関係

役職名	氏名	所属(就任時)	在任期間
評議員	荒木透	日本科学技術情報センター監事・(元) 科学技術庁金属材料技術研究所長	昭和63年12月15日～ 平成11年3月31日
評議員	池中徳治	大阪大学理学部教授	昭和63年12月15日～ 平成7年3月31日
評議員	高松武一郎	京都大学名誉教授・関西大学工学部教 授	昭和63年12月15日～ 平成7年3月31日
評議員	立花精	立命館大学名誉教授	昭和63年12月15日～ 平成7年3月31日
評議員	田中廣吉	(元)科学技術庁無機材質研究所長	昭和63年12月15日～ 平成11年3月31日
評議員	増本健	東北大学金属材料研究所教授	昭和63年12月15日～ 平成3年3月31日

(2-3) 選考委員会関係

役職名	氏名	所属(就任時)	在任期間
選考委員	木村茂行	科学技術庁無機材質研究所総合研究官	昭和63年12月15日～ 平成11年3月31日
選考委員	末高 洽	東北大学名誉教授	昭和63年12月15日～ 平成7年3月31日
選考委員	新居 和嘉	科学技術庁金属材料技術研究所科学研 究官	昭和63年12月15日～ 平成2年3月31日
選考委員	橋本 芳一	慶應義塾大学理工学部教授	平成2年4月1日～ 平成5年3月31日

(2-4) 事務局関係

役職名	氏名	在任期間
事務局長	中塚 豪朗	昭和63年12月15日～平成3年1月7日 平成3年5月7日～平成4年12月22日
事務局長	藤井 善雄	平成3年1月7日～平成3年5月7日
事務局長	木原 皓博	平成4年12月22日～平成10年3月31日

現行役員

役職名	氏名	所属(就任時)	就任年月日
顧問	梅澤 邦臣	(元) 科学技術庁事務次官・吉田科学技術財団理事長・ (財) 原子力安全技術センター理事長	昭和 63 年 12 月 15 日～
顧問	石川 忠雄	慶応義塾大学塾長・慶應義塾大学理事長、学長	昭和 63 年 12 月 15 日～

(3-1) 理事会関係

役職名	氏名	所属(就任時)	就任年月日
会長	泉 祐彰	ハクスイテック株式会社社長	平成 10 年 3 月 26 日～ (理事就任：平成 10 年 1 月 20 日～)
理事長	鶴田 禎二	東京大学名誉教授・東京理科大学工学部教授	平成 10 年 3 月 26 日～ (理事就任：昭和 63 年 12 月 15 日～)
常務理事	池田 重良	大阪大学名誉教授・龍谷大学理工学研究所教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
理事	塩川 二郎	大阪大学名誉教授・近畿大学理工学部教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
理事	川崎 雅弘	科学技術庁科学技術政策研究所所長	平成 3 年 4 月 1 日～
理事	小畷 信勝	弁護士・(元) 広島高等検察庁検事長	平成 3 年 4 月 1 日～
理事	増本 健	東北大学教授・東北大学金属材料研究所所長	平成 3 年 4 月 1 日～
理事	池中 徳治	大阪大学名誉教授・帝塚山学院短期大学学長	平成 3 年 4 月 1 日～ 7
理事	泉 和子	アイアンドエフビルディング(株)取締役	平成 7 年 4 月 1 日～
理事	高松武一郎	京都大学名誉教授・関西大学教授	平成 7 年 4 月 1 日～
理事	海保 孝	(株)大和銀行頭取	平成 7 年 12 月 14 日～
監事	中辻 稔	公認会計士/サンワ・等松青木監査法人地区代表	昭和 63 年 12 月 15 日～
監事	大室 勝	大室税理士事務所所長	平成 5 年 4 月 1 日～

(3-2) 評議員会関係

役職名	氏名	所 属 (就任時)	就任年月日
評議員	黒田 晴雄	東京大学理学部教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
評議員	作花 済夫	京都大学化学研究教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
評議員	高橋 満直	白水化学工業 (株) 取締役	昭和 63 年 12 月 15 日～
評議員	竹本 喜一	大阪大学工学部教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
評議員	伊藤 龍象	大阪大学名誉教授・高知工業高等専門学校校長	平成 7 年 4 月 1 日～
評議員	末高 治	東北大学名誉教授	平成 7 年 4 月 1 日～
評議員	千田 貢	京都大学名誉教授・福井県立大学教授	平成 7 年 4 月 1 日～
評議員	井上 祥平	東京大学名誉教授・東京理科大学工学部教授	平成 11 年 4 月 1 日～
評議員	金丸 文一	大阪大学名誉教授・福井工業大学教授	平成 11 年 4 月 1 日～
評議員	木村 茂行	科学技術庁無機材質研究所所長	平成 11 年 4 月 1 日～
評議員	妹尾 学	東京大学名誉教授・日本大学理工学部教授	平成 11 年 4 月 1 日～

(3-3) 選考委員会関係

役職名	氏名	所 属 (就任時)	就任年月日
選考委員	池田 重良	大阪大学名誉教授・龍谷大学理工学研究 研究所教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
選考委員	伊藤 龍象	大阪大学基礎工学部教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
選考委員	井上 祥平	東京大学工学部教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
選考委員	小田 雅司	大阪大学理学部教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
選考委員	妹尾 学	東京大学生産技術研究所教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
選考委員	千田 貢	京都大学農学部教授	昭和 63 年 12 月 15 日～
選考委員	小口 醇	科学技術庁金属材料技術研究所科学 研究官	平成 2 年 4 月 1 日～
選考委員	新原 皓一	大阪大学産業科学研究所教授	平成 3 年 4 月 1 日～
選考委員	茅 幸二	慶應義塾大学教授	平成 5 年 4 月 1 日～
選考委員	足立 裕彦	京都大学大学院工学研究科教授	平成 7 年 4 月 1 日～
選考委員	加茂 睦和	科学技術庁無機材質研究所総括無機材 質研究官	平成 11 年 4 月 1 日～
選考委員	金丸 文一	大阪大学名誉教授・福井工業大学教授	平成 11 年 10 月 1 日～
選考委員	山本 雅英	京都大学名誉教授・立命館大学理工学 部客員教授	平成 12 年 9 月 25 日～

(3-4) 事務局関係

役職名	氏名	就任年月日
事務局長	太田 潔	平成 10 年 3 月 31 日～

研究助成・助成一覧表

平成元年度

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H01-J-02 武 笠 幸 一 (教授)	北海道大学 工学部 電子工学科	新強磁性物質探索のための原子分解能スピン偏極電子トンネル分光の研究 平成元年 9 月 1 日～2 年 8 月 31 日
H01-J-04 吉 田 博 (助手)	東北大学 理学部 物理学科	固体電子論的手法による物質設計システムの開発 平成元年 10 月 1 日～3 年 9 月 30 日
H01-J-09 宮 崎 照 宣 (助教授)	東北大学 工学部 応用物理学科	磁気センサー用高磁気抵抗人工格子薄膜の合成 平成元年 4 月 1 日～3 年 3 月 31 日
H01-J-12 西 郷 和 彦 (助教授)	東京大学 工学部 合成化学科	人工光学活性ポリマーのキラル識別機能の解明と材料設計 平成元年 4 月 1 日～2 年 3 月 31 日
H01-J-18 田 島 裕 之 (助手)	東京大学 理学部 化学科	強磁場下の導電性低次元化合物配向試料作成および物性測定 平成元年 9 月 1 日～2 年 8 月 31 日
H01-J-21 宮 田 清 蔵 (教授)	東京農工大学 工学部 物質生物工学科	高分子機能性有機分子ホスト・ゲスト系の凝集状態制御により発生する非線形光学効果に関する研究 平成元年 8 月 1 日～2 年 7 月 31 日
H01-J-23 木 村 敏 夫 (助教授)	慶応義塾大学 理工学部 応用化学科	配向性 P Z T セラミックスの作製 平成元年 4 月 1 日～2 年 3 月 31 日
H01-J-26 逢 坂 哲 彌 (教授)	早稲田大学 理工学部 応用化学科	無電解めっき薄膜の高密度磁気記録材料への応用 平成元年 9 月 1 日～2 年 8 月 31 日
H01-J-29 村 上 俊 男 (助教授)	京都文教短期大学 家政学科	ビタミン B ₂ -アルデヒド生成酵素の新規補酵素に関する研究 平成元年 4 月 1 日～2 年 9 月 30 日
H01-J-32 秋 吉 一 成 (助手)	京都大学 工学部 高分子化学科	機能性多糖ゲルの合成と医用材料への応用 平成元年 10 月 1 日～2 年 9 月 30 日
H01-J-33 神 野 賢 一 (助手)	京都大学 理学部 物理学	混晶における励起状態の緩和機構とその制御 平成元年 4 月 1 日～2 年 6 月 30 日
H01-J-38 高 井 幹 夫 (助教授)	大阪大学 基礎工学部 電気工学科	多機能インテリジェントセンサーのための高度機能性材料の開発 平成元年 10 月 1 日～2 年 9 月 30 日
H01-J-40 松 林 玄 悦 (助教授)	大阪大学 工学部 応用化学科	セレン原子による多次元性相互作用を有する新規な導電性金属錯体の開発と構造化学的研究 平成元年 10 月 1 日～2 年 9 月 30 日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H01-J-42 田 口 常 正 (講師)	大 阪 大 学 工 学 部 電 気 工 学 科	有機金属材料を用いたZnS青色発光ダイオードの 実用化 平成元年9月30日～2年9月30日
H01-J-47 梶 山 千 里 (教授)	九 州 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	大面積・フレキシブル液晶フィルムの開発と光情報機能 化 平成元年10月1日～2年9月30日

平成2年度

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H02-J-01 相 田 卓 三 (講師)	東 京 大 学 工 学 部 工 業 化 学 科	分子量の制御された高機能性高分子材料の開発 平成2年9月1日～3年8月31日
H02-J-05 西 田 哲 明 (助手)	九 州 大 学 理 学 部 化 学 科	光メモリー効果および電氣的メモリー効果を有する酸化 物ガラスの開発 平成2年10月1日～3年9月30日
H02-J-06 松 本 章 一 (助手)	大 阪 市 立 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	アダマンチル基を含む新規ポリマーの合成と性質 平成2年10月1日～3年9月30日
H02-J-08 大 久 保 恒 夫 (助教授)	京 都 大 学 工 学 部 高 分 子 化 学 科	異方性コロイド粒子の結晶構造発現機構ならびに光学材 料への展開 平成2年10月1日～3年9月30日
H02-J-10 藤 田 静 雄 (助手)	京 都 大 学 工 学 部 電 気 工 学 教 室	III-V / II-VI 族半導体薄膜多層構造による新機能性の 創出 平成2年10月1日～3年9月30日
H02-J-14 太 田 英 二 (助教授)	慶 応 義 塾 大 学 理 工 学 部 計 測 工 学 科	半導体における高濃度キャリアトラップの評価法に関す る研究 平成2年4月1日～3年3月31日
H02-J-19 宮 仕 勉 (教授)	東 北 大 学 理 学 部 化 学 科	含窒素複素環の縮合を利用した新規な有機酸化還元系の 開発 平成3年4月1日～4年3月31日
H02-J-26 黒 田 一 幸 (教授)	早 稲 田 大 学 理 工 学 部 応 用 化 学 科	インターカレーションによる層状遷移金属酸化物からの 新規光機能材料の合成 平成2年10月1日～3年9月30日
H02-J-30 三 浦 則 雄 (助教授)	九 州 大 学 大 学 院 総 合 理 工 学 研 究 科	複合酸化物系電極触媒を用いた高性能酸素電極の開発と 応用 平成2年10月1日～3年9月30日
H02-J-31 荒 木 孝 二 (助教授)	東 京 大 学 生 産 技 術 研 究 所	光応答機能を有する精密分子認識素子の研究 平成2年9月1日～3年8月31日
H02-J-35 魚 崎 浩 平 (助教授)	北 海 道 大 学 理 学 部 化 学 科	有機分子のセルフアセンブリによる固体表面への 機能性付与 平成2年9月1日～3年8月31日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H02-J-38 細野秀雄 (助教授)	名古屋工業大学 工 学 部 材 料 工 学 科	NASICON 型結晶を骨格とする多孔質結晶化ガラスの 二次電池電極および酵素担体への応用 平成2年8月1日～3年7月31日
H02-J-44 岡本佳男 (教授)	名古屋大学 工 学 部 合 成 化 学 科	光学活性かつ剛直な側鎖を有する櫛型高分子による 新規・側鎖型高分子液晶の開発とその光学分割能 平成2年9月1日～3年8月31日
H02-J-48 古沢伸一 (助手)	名古屋大学 工 学 部 人工結晶研究 施設	超イオン導電体 AgI に於ける絶縁体微粒子分散効果の 研究 平成2年4月1日～3年3月31日
H02-J-49 堀井文敬 (助教授)	京都大学 化学研究所	高気体透過性ポリアセチレン誘導体膜の構造制御と分子 運動 平成2年9月1日～3年8月31日
H02-J-50 黒澤 宏 (助教授)	大阪府立大学 工 学 部 電 子 工 学 科	真空紫外レーザーを用いたレーザーマテリアルプロセッ シング 平成2年9月1日～4年3月31日
H02-J-54 覚知豊次 (助手)	北海道大学 工 学 部 合成化学工学科	光学活性クラウンポリマーの設計と合成 ～ アミノ酸不斉認識センサーおよび光学分割膜への応用～ 平成2年4月1日～3年3月31日
H02-J-55 浦上 忠 (教授)	関西大学 工 学 部 教 養 化 学	有機液体混合物の分離・濃縮を高効率に行える高機能な 高分子膜の設計・合成 平成2年4月1日～3年3月31日
H02-J-62 田原弘一 (助手)	大阪大学 基礎工学部 機 械 工 学 科	機能性膜デポジション用の電磁界制御型マイクロ波高エ ネルギー密度プラズマ熱源の開発 平成2年10月1日～3年9月30日
H02-J-63 沼田卓久 (講師)	大阪大学 基礎工学部 制 御 工 学 科	多磁区磁気光学機能材料の非線形磁気光学応用 平成2年10月1日～3年9月30日
H02-J-68 宮下 哲 (助手)	東北大学 金属材料研究所	高温溶液法による酸化物超伝導体結晶の育成 平成2年9月1日～4年3月31日
H02-J-71 桑原 誠 (教授)	九州工業大学 工 学 部 物 質 工 学 科	チタン酸鉛系複合セラミックスにおける異常誘電特性の 機構解明 平成2年4月1日～3年3月31日
H02-J-76 井川博行 (助教授)	東京工業大学 工 学 部 無機材料工学科	ZrTiO ₄ -Y ₂ O ₃ -Nb ₂ O ₅ 系マイクロ波用誘電体の設計 平成2年5月10日～3年3月31日
H02-J-78 平尾 明 (助教授)	東京工業大学 工 学 部 高 分 子 工 学 科	新規のアルコキシシリル基含ブロック共重合体を用いた 規則性多層構造を有する無機-有機複合体及びガラス体 の合成と機能材料への応用 平成2年4月1日～4年3月31日
H02-J-81 五神 真 (講師)	東京大学 工 学 部 物 理 工 学 科	非線形偏光分光法による3次非線形光学材料の探索 平成2年4月1日～3年3月31日

平成3年度

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H03-J-01 渡 辺 正 義 (助手)	上 智 大 学 理 工 学 部 化 学 科	芳香族複素環系高分子超薄膜の開発とその光・電子・プロトン機能 平成3年4月1日～4年3月31日
H03-J-03 河 本 洋 二 (教授)	神 戸 大 学 理 学 部 化 学 科	希土イオンのアップコンバージョン蛍光に基づく可視レーザーガラスの開発に関する基礎化学的研究 平成3年10月1日～4年9月30日
H03-J-04 金 森 寛 (助教授)	富 山 大 学 理 学 部 化 学 科	生体内反応を模した高機能性錯体の開発 平成3年9月1日～4年8月31日
H03-J-06 北 野 博 巳 (助教授)	富 山 大 学 工 学 部 化学生物工学 教室	リン脂質型重合開始剤および連鎖移動剤を用いる新規機能性リン脂質の開発 平成3年4月1日～4年3月31日
H03-J-08 石 井 康 敬 (教授)	関 西 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	パーオキシヘテロポリ酸を用いる特異的触媒反応の開拓 平成3年7月1日～4年8月31日
H03-J-17 野 間 竜 男 (講師)	東 京 農 工 大 学 工 学 部 物 質 生 物 工 学 科	コンポジット化による高強度生体活性セラミックスの開発 平成3年10月1日～4年3月31日
H03-J-21 板 谷 謹 悟 (助教授)	東 北 大 学 工 学 部 基 礎 工 業 化 学 教室	原子レベルでの固体/溶液界面構造解析とその制御 平成3年4月1日～4年3月31日
H03-J-25 片 岡 一 則 (助教授)	東 京 理 科 大 学 基 礎 工 学 部 材 料 工 学 科	薬理機能ドメインを有する標的指向性高分子ミセルの設計と機能評価 平成3年9月1日～5年8月31日
H03-J-28 原 田 明 (助手)	大 阪 大 学 理 学 部 高 分 子 学 科	生体系を利用した高度特異性機能を有する高分子材料の合成 平成3年9月1日～4年8月31日
H03-J-30 香 川 豊 (助教授)	東 京 大 学 生 産 技 術 研 究 所	光学機能化高靱性繊維強化ガラス基複合材料に関する研究 平成3年8月1日～4年7月31日
H03-J-31 稲 木 良 昭 (助教授)	大 阪 大 学 工 学 部 応 用 精 密 化 学 科	高分子マトリックス中でのチミンの光二量化反応を利用する可逆的光記録システムに関する研究 平成3年10月1日～4年9月30日
H03-J-37 九 内 淳 堯 (助教授)	広 島 大 学 工 学 部 応 用 化 学 講 座	高電導性および光感応性を付与した機能性有機シリコンポリマーの一段合成 平成3年4月1日～4年3月31日
H03-J-39 佐 々 木 実 (助教授)	広 島 大 学 理 学 部 物 性 学 科	過渡熱起電力測定技術の開発と酸化物高温超伝導体への応用 平成3年10月1日～4年9月30日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H03-J-44 中山 恒 義 (教授)	北海道大学 工学部 応用物理学科	超伝導-絶縁体転移における臨界面抵抗の普遍とその 高温超伝導薄膜での実証 平成3年10月1日～4年9月30日
H03-J-45 大木 義 路 (教授)	早稲田大学 理工学部 電気工学科	エルビウムドープファイバーにおけるアップコンバー ジョン 平成3年10月1日～4年9月30日
H03-J-47 植 寛 素 (教授)	筑波大学 物理工学系	レーザーアブレーションを用いた量子常誘電体等酸化物 薄膜の作製とその物性の研究 平成3年9月1日～4年8月31日
H03-J-48 宮崎 修 一 (助教授)	筑波大学 物質工学系	マイクロアクチュエータ用形状記憶合金薄膜の開発 平成3年10月1日～5年3月31日
H03-J-50 畑 中 研 一 (助教授)	東京工業大学 生命理工学部 生体分子工学科	血液型抗原オリゴ糖鎖を有する生体適合性材料の合成 平成3年9月1日～4年8月31日
H03-J-55 金 藤 敬 一 (教授)	九州工業大学 情報工学部 電子情報工学科	走査型トンネル顕微鏡による導電性高分子の配向化電解 重合に関する研究 平成3年9月1日～4年8月31日
H03-J-59 坂 本 英 文 (助手)	名古屋工業 大学/工学部 応用化学科	高イオン選択性オリゴエチレングリコールヒドラゾン誘 導体の開発と金属イオンの分離・定量への応用 平成3年10月1日～5年3月31日
H03-J-63 井 上 泰 宣 (教授)	長岡技術科学 大学/工学部 化学系	単分域化強誘電体による気体識別機能の発現および気体 センサーへの応用 平成3年10月15日～4年10月14日
H03-J-65 小 松 高 行 (助教授)	長岡技術科学 大学/工学部 化学系	強誘電体超微粒子含有テルライト系ガラスの開発と誘電 的・光学的性質 平成3年9月1日～4年8月31日
H03-J-69 南 努 (教授)	大阪府立大学 工学部 応用化学科	ゾル-ゲル法によるペロブスカイト型強誘電体薄膜の作 製と特性 平成3年9月1日～5年3月31日
H03-J-77 久 枝 良 雄 (助教授)	九州大学 工学部 応用物質化学科	マクロ環型人工リセプターの開発 平成3年6月1日～4年3月21日
H03-J-78 中 嶋 英 雄 (助教授)	東北大学 金属材料研究所	マグネシウム合金における拡散に関する研究 平成3年9月1日～5年8月31日
H03-J-82 澤 田 嗣 郎 (教授)	東京大学 工学部 工業化学科	レーザー誘起フォノンを用いた新超伝導体のキャラクタ リゼーション法の開発 平成4年4月1日～6年3月31日
H03-J-85 市 川 淳 士 (講師)	九州工業大学 工学部 物質工学科	機能性含フッ素化合物を指向する新しい官能性フルオロ オレフィンの合成とその重合反応 平成3年4月1日～4年3月31日
H03-J-90 石 津 浩 二 (助教授)	東京工業大学 工学部 高分子工学科	液相エピタキシャル膜法によるモザイク荷電膜の高次構 造制御と物質透過 平成3年4月1日～4年3月31日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H03-J-91 横尾俊信 (助教授)	京 都 大 学 化 学 研 究 所	ゾル-ゲル法による CdSi _{1-x} Sex 半導体超微粒子ドーブ 非線形光学材料用薄膜の合成と評価 平成3年9月1日～4年8月31日

平成4年度

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H04-J-01 小田廣和 (助教授)	関 西 大 学 工 学 部 化 学 工 学 科	高性能吸着剤の開発およびその吸着特性 平成4年4月1日～6年3月31日
H04-J-02 竹中繁織 (助教授)	九州工業大学 情報工学部 生物化学シス テム工学科	機能性色素と核酸塩基とを組み合わせた新規分子アセン ブリ材料の開発 平成4年4月1日～5年3月31日
H04-J-08 小夫家芳明 (教授)	静 岡 大 学 工 学 部 材 料 精 密 化 学 科	人工イオンチャネルの分子構築 平成4年10月1日～5年9月30日
H04-J-17 中川匡弘 (助教授)	長岡技術科学 大学 / 工学部 電 気 系	フラクタル凝集機構を利用した微粒子分散型ネマチック 液晶カラー表示デバイスの開発 平成4年9月1日～5年8月31日
H04-J-28 村上正紀 (教授)	京 都 大 学 工 学 部 金 属 加 工 学 科	ダイヤモンド半導体発光素子のオーミック・コンタクト 材料の研究 平成4年9月1日～5年8月31日
H04-J-34 村上正浩 (助手)	京 都 大 学 工 学 部 合 成 化 学 科	新しい光学活性ポリマー Poly (quinoxaline)の合成研究 平成4年10月1日～5年9月30日
H04-J-36 宮田幹二 (助教授)	岐 阜 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	包接現象に基づく分子レベル複合材料の開発 平成4年9月1日～6年3月31日
H04-J-41 山口 兆 (教授)	大 阪 大 学 理 学 部 化 学 科	新規電子・光機能性物質の精密分子設計とその合成 平成4年9月1日～5年8月31日
H04-J-49 川崎雅司 (助手)	東京工業大学 工業材料研究所	高機能性量子構造セラミックスの作製と物性 平成4年9月1日～5年8月31日
H04-J-56 浜地 格 (助教授)	九 州 大 学 工 学 部 応 用 物 質 化 学 科	刺激応答性固定化酵素材料の開発 平成4年4月1日～5年3月31日
H04-J-57 北川 進 (教授)	東京都立大学 理 学 部 化 学 教 室	外部応答性可変物性を持つ金属錯体ポリマーの構築 平成4年9月1日～5年8月31日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H04-J-60 和田山智正 (助教授)	東北大学 工学部 材料物性学科	CVD法によるAI系薄膜堆積過程の表面・気相その場分析 平成4年10月1日～5年9月30日
H04-J-62 石尾俊二 (助教授)	東北大学 工学部 応用物理学科	超磁歪・希土類一遷移金属間化合物の基礎並びに応用研究 平成4年9月1日～6年3月31日
H04-J-85 山中昭司 (教授)	広島大学 工学部 応用化学講座	粘土層間を利用する二次元強磁性体の開発 平成4年4月1日～5年3月31日
H04-J-87 河東田 隆 (助教授)	東京大学 工学部 電子工学科	ラマン分光法による機能性材料における応力と電子的・光学的特性との相関の研究 平成4年6月1日～5年3月31日
H04-J-88 今井 洋 (助教授)	九州工業大学 情報工学部 電子情報工学科	機能性光ファイバデバイスの開発 平成4年9月1日～6年8月31日
H04-J-89 本津茂樹 (講師)	近畿大学 理工学部 電子工学科	酸化物超伝導体と圧電体の多層薄膜の作製と新しいデバイスの基礎研究 平成4年10月1日～5年9月30日
H04-J-100 卜部和夫 (助手)	名古屋大学 工学部 応用化学科	繊維状粘土結晶のナノ加工と分子機能 平成4年4月1日～5年3月31日
H04-J-112 斉木幸一朗 (助教授)	東京大学 理学部 化学科	原子スケール解像度を持つ無機レジスト材料に関する研究 平成4年9月1日～5年7月31日
H04-J-119 金光義彦 (講師)	筑波大学 物理学系	有機半導体の量子細線と量子井戸構造の光物性と光デバイスへの応用 平成4年8月1日～6年3月31日
H04-J-120 中嶋直敏 (助教授)	長崎大学 工学部 応用化学科	細胞膜に類似の素材を用いた電極界面の高次機能化と電気化学反応の制御 平成4年10月1日～6年9月30日
H04-J-130 宗田孝之 (助教授)	早稲田大学 理工学部 電気工学科	半導体極微細構造物中における電子一フォノン相互作用の研究 平成4年4月1日～5年3月31日
H04-J-139 高橋昌男 (助手)	大阪大学 産業科学研究 所	酸化亜鉛系透明導電膜の作製と評価 平成4年9月1日～6年3月31日

平成5年度

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H05-J-04 井上將彦 (助手)	大阪府立大学 工学部 機能物質科学科	情報発信型人工核酸塩基レセプターの分子設計と合成 平成5年4月1日～6年3月31日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H05-J-27 西垣 敏 (教授)	九州工業大学 工 学 部 電 気 工 学 科	スピン偏極した準安定原子ビームによる局所電子スピン 状態分析法の開発 平成5年9月1日～6年8月31日
H05-J-47 田中啓司 (教授)	北海道大学 工 学 部 応用物理学科	イオン伝導性半導体における光誘起化学修飾現象に 関する研究 平成5年8月1日～7年3月31日
H05-J-54 長崎幸夫 (講師)	東京理科大学 基 礎 工 学 部 材 料 工 学 科	新しい反応性含ケイ素ポリマーの合成とそのガス透過用 材料としての応用 平成5年9月1日～7年3月1日
H05-J-57 中村尚武 (教授)	立命館大学 理 工 学 部 化 学 科	高度の機能性を持つ有機遷移金属錯体液晶の合成と その評価 平成5年4月1日～6年3月31日
H05-J-67 平井隆之 (助手)	大阪大学 基 礎 工 学 部 化 学 工 学 科	逆相ミセルを用いる半導体超微粒子調製プロセスの開発 と光触媒反応への応用に関する研究 平成5年10月1日～6年9月30日
H05-J-78 木村恵一 (助教授)	大阪大学 工 学 部 プロセス工学 専攻	フォトクロミッククラウン化合物の分子設計と光応答性 イオン伝導材料への展開 平成5年9月1日～6年12月31日
H05-J-94 藤井正明 (助教授)	早稲田大学 理 工 学 部 化 学 科	質量選別しきいイオン分光法の開発と分子クラスター カチオンの分光研究 平成6年11月1日～7年10月31日
H05-J-97 大瀧倫卓 (助手)	九州大学 大 学 院 総 合 理 工 学 研 究 科	エネルギー高効率利用のための酸化物高温熱電変換材料 の開発 平成5年9月1日～7年3月31日
H05-J-109 神成文彦 (助教授)	慶応義塾大学 理 工 学 部 電 気 工 学 科	有機・無機薄膜積層材料のフェムト秒パルスレーザー 励起光導電応答とそのメカニズムに関する研究 平成5年9月1日～7年8月31日
H05-J-117 垣花真人 (助教授)	東京工業大学 工業材料研究所	錯体重合法による高度機能性セラミックス・薄膜材料の ナノデザイン 平成5年10月1日～6年9月30日
H05-J-125 重川秀実 (講師)	筑波大学 物 質 工 学 系	STM / STS による機能性有機薄膜の構造と物性の研究 平成5年4月1日～6年3月31日
H05-J-138 稲辺 保 (助教授)	北海道大学 理 学 部 化学第二学科	二次元分子性固体場の創造とその機能化 平成5年10月1日～6年9月30日
H05-J-140 手塚育志 (助教授)	長岡技術科学 大 学 化 学 系	環状オニウム塩型テレケリックポリマーを用いるモデル 高分子合成法の開発 平成5年10月1日～6年9月30日
H05-J-141 佐藤一則 (助教授)	長岡技術科学 大 学 / 工 学 部 分析計測センター	高エネルギー変換効率を有する固体電解質型燃料電池の 開発 平成5年9月1日～6年8月31日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H05-J-144 園 元 謙 二 (助教授)	九 州 大 学 農 学 部 食糧化学工学科	先端材料開発における生体触媒の先駆的利用 —非天然有機ケイ素化合物の酵素による認識と生化学的変換に 関する萌芽的研究— 平成5年10月1日～6年9月30日
H05-J-146 馬 場 俊 彦 (講師)	横浜国立大学 工 学 部 電子情報工学科	GaInAsP / InP 系半導体面発光レーザの大規模集積化に 関する研究 平成5年10月1日～6年9月30日
H05-J-149 河 本 邦 仁 (教授)	名古屋大学 工 学 部 物質化学科	2次元分子配向したLB膜上への無機結晶の成長と その制御 平成5年9月1日～6年8月31日
H05-J-155 田 中 信 夫 (助教授)	名古屋大学 工 学 部 応用物理学科	セラミックス単結晶膜中に方位配向した半導体ナノ結晶 の構造と光物性 平成5年10月1日～6年9月30日
H05-J-159 井 上 明 久 (教授)	東 北 大 学 金属材料研究所	アモルファス合金のナノ結晶化制御による高機能特性 材料開発の基礎研究 平成6年4月1日～7年3月31日

平成6年度

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H06-J-02 長 崎 健 (講師)	大阪市立大学 工 学 部 生物応用化学科	刺激応答性螺旋構造体の構築と機能制御 平成6年4月1日～7年3月31日
H06-J-04 福 田 豊 (教授)	お茶の水女子 大学/理学部 化 学 科	金属錯体のクロモトロピズムの研究 平成6年9月1日～8年8月31日
H06-J-06 木 村 勝 (助教授)	岡 山 大 学 理 学 部 化 学 科	新しい π 共役系を用いる電気伝導性材料の開発 平成6年10月1日～7年9月30日
H06-J-11 喜 多 隆 (助手)	神 戸 大 学 工 学 部 電気電子工学科	混晶半導体自然超格子による間接型半導体の直接化に 関する研究 平成6年8月1日～7年7月31日
H06-J-18 有 賀 哲 也 (助教授)	京 都 大 学 理 学 部 化 学 教 室	動的に温度可変な走査トンネル顕微鏡の開発と半導体表 面反応の追跡 平成6年4月1日～7年3月31日
H06-J-42 平 尾 俊 一 (助教授)	大 阪 大 学 工 学 部 応用精密化学科	合成金属触媒の創出に基づくレドックス系の構築 平成6年4月1日～7年3月31日
H06-J-51 金 武 直 幸 (助教授)	名古屋大学 工 学 部 材料機能工学科	高機能金属基複合材料の材質予測制御のための界面メゾ メカニクス 平成6年10月1日～7年9月30日
H06-J-66 国 森 公 夫 (助教授)	筑 波 大 学 物 質 工 学 系	マイクロ空間に包接した貴金属複合酸化物触媒の新機能 平成6年10月1日～7年9月30日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H06-J-71 腰原伸也 (助教授)	東京工業大学 理 学 部 応用物理学科	新光電材料 :ポリシラン(-SiRR'-)の構造と励起子のダイ ナミクス 平成6年10月1日~7年9月30日
H06-J-76 野上正行 (助教授)	名古屋工業大学 工 学 部 材 料 工 学 科	ゾル・ゲル法による光化学ホールパーニングガラスの作 成 平成6年4月1日~8年3月31日
H06-J-89 須田良幸 (助教授)	東京農工大学 工 学 部 電子情報工学科	シリコン/ゲルマニウム系半導体のサブ原子層単位成長 デジタルエピタキシー 平成6年10月1日~7年9月30日
H06-J-93 木村俊作 (助教授)	京 都 大 学 工 学 部 材料化学教室	シトクロムcの2次元結晶膜の調製と特性解析 平成6年9月1日~7年8月31日
H06-J-113 杉本 裕 (助手)	東京理科大学 工 学 部 工 業 化 学 科	ランタノイド錯体を利用する高分子材料の新合成法 平成6年10月1日~7年9月30日
H06-J-114 横谷篤至 (助教授)	宮 崎 大 学 工 学 部 電気電子工学科	ニューロコンピューター素子用高品質フォトリフラクテ ィブ結晶 BaTiO ₃ の育成に関する研究 平成6年9月1日~7年8月31日
H06-J-120 吉本 護 (助教授)	東京工業大学 工業材料研究所	レーザー励起原子層制御による非晶質酸化物超格子の構 築と光機能化 平成6年9月1日~7年8月31日
H06-J-140 田中雅明 (助教授)	東 京 大 学 工 学 部 電子情報工学科	原子スケールで制御された磁性体/半導体超薄膜ヘテロ 構造の形成とその応用 平成6年10月1日~7年9月30日
H06-J-155 鈴木孝治 (助教授)	慶応義塾大学 理 工 学 部 応 用 化 学 科	新規アンモニウムイオノホア分子の創製と高性能化学セ ンサーへの応用 平成6年7月1日~8年3月31日
H06-J-160 谷口一雄 (教授)	大阪電気通信 大学・工学部 電子物性工学科	高感度軟X線分光装置の試作と薄膜の超微量元素及び 価電子帯電子構造の精密測定 平成6年9月1日~7年8月31日
H06-J-162 山口雅彦 (助教授)	東 北 大 学 理 学 部 化学第二学科	ねじれた芳香環によって形成される不斉場の研究と光学 活性材料への応用 平成6年9月1日~7年8月31日
H06-J-169 長谷川 功 (助手)	岐 阜 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	シリカ系材料の分子設計に関する研究 平成6年4月1日~7年3月31日

平成7年度

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H07-J-19 江 鐘 偉 (助教授)	東 北 大 学 工 学 部 機械電子工学科	圧電フィルムを用いた早期前立腺癌/肥大症触診用 プローブの開発 平成7年9月1日~9年3月30日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H07-J-29 並木 章 (助教授)	豊橋技術科学 大学/工学部 電気電子工学系	超音速分子線法を用いたデバイスプロセスの基礎的研究 平成7年10月1日～8年9月30日
H07-J-36 田中 功 (助手)	京 都 大 学 工 学 部 材 料 工 学 科	新しい機能性セラミックスの量子材料設計 平成7年10月1日～8年9月30日
H07-J-37 石原達己 (助教授)	大分大学 工学部 応用化学科	ペロブスカイト型構造を有する高酸素イオン伝導性酸化物の開発と燃料電池への応用 平成7年10月1日～8年9月30日
H07-J-38 大須賀篤弘 (助教授)	京 都 大 学 大 学 院 理 学 研 究 科	ポルフィリン多量体に基づく集光型光応答分子デバイスの基礎的研究 平成7年9月1日～8年8月31日
H07-J-59 作花哲夫 (助手)	京 都 大 学 原子エネルギー 研究所	高選択的なレーザー同位体分離の作業物質 平成7年4月1日～9年3月31日
H07-J-67 佐々木 眞 (助教授)	室蘭工業大学 工 学 部 材料物性工学科	熱電エネルギー変換用結晶性セラミックスの作成と評価 平成7年9月1日～8年3月20日
H07-J-69 細野秀雄 (助教授)	東京工業大学 工業材料研究所	透明な電子伝導性ガラス・アモルファスの創製の試み —酸化物アモルファス半導体のルネッサンスをめざして 平成7年9月1日～8年8月31日
H07-J-71 太田哲男 (助教授)	同志社大学 工 学 部 機能分子工学科	光学活性ジリド金属錯体の合成とその不斉触媒反応の開発 平成7年4月1日～8年3月31日
H07-J-85 小豆畑 敬 (助手)	早稲田大学 理 工 学 部 電 気 工 学 科	窒化ガリウムの発光ダイナミクス 平成7年4月1日～8年3月31日
H07-J-87 佐野 充 (教授)	名古屋大学 情報文化学部 自然情報学科	分子を基礎とする記憶素子の基礎研究 平成7年10月1日～8年8月31日
H07-J-94 川崎仁晴 (助手)	九州大学 工 学 部 電 気 工 学 科	量子効果により可視発光するナノ微粒子の作製と構造制御に関する研究 平成7年9月15日～8年9月14日
H07-J-103 西村紳一郎 (教授)	北海道大学 大 学 院 理 学 研 究 科	糖鎖自動合成システムの開発 平成8年4月1日～9年3月31日
H07-J-119 堀田 将 (助教授)	北陸先端科学 技術大学院大学 材料科学研究科	イオンチャンネルリングを用いた非晶質基板上への単結晶Si薄膜の作製 平成7年10月1日～8年9月30日
H07-J-120 田中茂雄 (助手)	北陸先端科学 技術大学院大学 材料科学研究科	骨組織を模倣したインテリジェント・マテリアルの開発 平成7年9月1日～8年9月1日
H07-J-129 折原勝男 (助教授)	山形大学 工 学 部 物 質 工 学 科	有機・無機同時蒸着膜における特異活性の解析と機能の探索 平成7年9月1日～8年8月31日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H07-J-136 松坂裕之 (助教授)	東京都立大学 理 学 部 化 学 科	カルコゲン原子により架橋された多核貴金属錯体上での 特異的有機合成反応の開発 平成7年10月1日～8年9月30日
H07-J-148 横野照尚 (助教授)	大阪大学 有機光工学 研究センター	光触媒担持人工膜を用いた人工光エネルギー変換システ ムの開発 平成7年10月1日～8年9月30日
H07-J-152 小川昭弥 (助教授)	大阪大学 大 学 院 工 学 研 究 科	ヘテロ原子 π 電子系構築のための新方法論の開発 平成7年4月1日～8年3月31日
H07-J-169 中川匡弘 (助教授)	長岡技術科学 大学/工学部 電 気 系	フラクタンス機能素子を用いた人工カオスニューロンの 開発 平成7年9月1日～8年8月31日

平成8年度

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H08-J-11 内藤正路 (助手)	九州工業大学 工 学 部 電 気 工 学 科	走査トンネル顕微鏡による半導体表面上の水素誘起表面 変性に関する研究 平成9年1月1日～9年12月31日
H08-J-17 八木繁幸 (助手)	大阪府立大学 工 学 部 機能物質科学科	軸性不斉誘起に基づくキラル分子認識センサーの開発 平成8年4月1日～9年3月31日
H08-J-18 民秋均 (助教授)	立命館大学 理 工 学 部 生 物 工 学 科	光合成アンテナ部をモデルとするエネルギー移動系の創 製 平成8年10月1日～9年9月30日
H08-J-19 今榮東洋子 (助教授)	名古屋大学 大 学 院 理 学 研 究 科	フッ化物からなるハイブリッド材料の設計 平成8年7月1日～9年3月31日
H08-J-30 土田亮 (助教授)	岐阜大学 工 学 部 応 用 化 学 科	コロイド結晶の電気光学効果によるフォトニクス素子の 開発 平成8年10月1日～10年3月31日
H08-J-31 岡田益男 (教授)	東北大学 工 学 部 材 料 物 性 学 科	高容量ニッケル・水素電池のための超急冷した希土類系 水素吸蔵合金の開発 平成8年9月1日～9年8月31日
H08-J-34 田路和幸 (助教授)	東北大学 工 学 部	単層ナノチューブの高純度精製とその応用に関する研究 平成8年10月1日～9年9月30日
H08-J-57 関野徹 (助手)	大阪大学 産 業 科 学 研 究 所	金属ナノ粒子分散セラミックス基複合材料の開発とその 構造・特性評価に関する研究 平成8年9月1日～9年8月31日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H08-J-64 若原昭浩 (助手)	京 都 大 学 大 学 院 工 学 研 究 科	自然形成量子ドットの形成機構の解明と制御に関する研究 平成8年9月1日～9年8月31日
H08-J-69 安田和人 (助教授)	名 古 屋 工 業 大 学 ・ 工 学 部 電 気 情 報 工 学 科	有機金属気相成長法による CdTe 系高性能X線検出器に関する研究 平成8年9月1日～9年8月31日
H08-J-71 前田 寧 (助手)	富 山 大 学 工 学 部 化 学 生 物 工 学 科	光化学反応場としての半導体ナノクラスター複合体の開発 平成8年8月1日～10年3月31日
H08-J-76 平尾雅彦 (講師)	東 京 大 学 大 学 院 工 学 系 研 究 科	固体内閉じ込め分子系による新機能材料の理論計算 平成8年10月1日～9年9月30日
H08-J-78 小西克明 (助手)	東 京 大 学 大 学 院 工 学 系 研 究 科	光学活性ポルフィリン錯体群の分子設計とそれを用いた新規機能性材料の創成 平成8年10月1日～9年9月30日
H08-J-86 榊 茂好 (教授)	熊 本 大 学 工 学 部 物 質 生 命 化 学 科	遷移金属光増感剤を結合した半導体微粒子の作成と光触媒反応への応用 平成8年10月1日～9年9月30日
H08-J-99 今中 信人 (講師)	大 阪 大 学 大 学 院 工 学 研 究 科	固体電解質を用いた新規な高性能型の一酸化窒素センサの開発 平成8年10月1日～9年9月30日
H08-J-101 丸岡 啓二 (教授)	北 海 道 大 学 大 学 院 理 学 研 究 科	機能性ヘルス酸を用いる新規共役アルキル化反応の開発とその先端機能性有機材料合成への応用 平成8年4月1日～9年3月31日
H08-J-106 新名主輝男 (助教授)	九 州 大 学 有 機 化 学 基 礎 研 究 セ ン タ ー	新規酸化還元反応触媒、および有機磁性体・電導体を指向した遷移・希土類金属- π -アレーン錯体の合成と物性 平成8年9月1日～9年8月31日
H08-J-117 佐々木公洋 (助教授)	金 沢 大 学 工 学 部 電 気 ・ 情 報 工 学 科	強誘電性 PZT 薄膜の新しい低温成長過程の解明 平成8年10月1日～9年9月30日

平成9年度

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H09-J-01 荒川 隆一 (教授)	関 西 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	エレクトロスプレー場を利用した機能性金属錯体の新規合成・検出法の開発 平成9年10月1日～10年9月30日
H09-J-19 荒木 孝司 (助教授)	九 州 工 業 大 学 工 学 部 物 質 工 学 科	金属イオン透過機能を有する超分子ナノチューブの合成 平成9年4月1日～10年3月31日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H09-J-21 中戸晃之 (助手)	北海道大学 大学院 地球環境科学 研究科	層状バナジウム-リン複合酸化物の層剥離・再構成による高機能酸化触媒の創製 平成9年4月1日～10年3月31日
H09-J-27 西原 寛 (教授)	東京大学 大学院 理学系研究科	近赤外-光伝導性をもつパイ共役フェロセンポリマーの開発 平成9年9月1日～11年3月31日
H09-J-31 清水康博 (助教授)	長崎大学 工学部 材料工学科	バリスタ型ガスセンサのガス検知機構の解明と高性能化 平成9年4月1日～11年3月31日
H09-J-34 松本泰道 (教授)	熊本大学 工学部 物質生命化学科	固体酸化物電気化学ドーピング(SOED)法 平成9年10月1日～10年9月30日
H09-J-41 飯田 敏 (助教授)	富山大学 理学部 物理学科	シリコン結晶中の grown-in 微小欠陥の研究 平成9年10月1日～10年9月30日
H09-J-45 吉野賢二 (助手)	宮崎大学 機器分析 センター	カルコパイライト型半導体太陽電池材料の内因性格子欠陥の研究 平成10年4月1日～11年3月31日
H09-J-46 白石和男 (教授)	宇都宮大学 工学部 電気電子工学科	極めて大きな偏光分離特性を有する人工異方性積層型偏光分離素子の作製 平成9年9月1日～10年3月31日
H09-J-48 吉門進三 (教授)	同志社大学 工学部 電子工学科	ギガヘルツ帯で動作する複合電磁波吸収材料の開発と評価に関する研究 平成9年4月1日～10年3月31日
H09-J-49 斉藤光徳 (教授)	龍谷大学 理工学部 電子情報学科	超音波による微粒子制御技術を用いた光機能性人工誘電体の開発 平成9年9月1日～10年8月31日
H09-J-57 河合 潤 (助教授)	京都大学 大学院 工学研究科	マイクロビーム全反射X線光電子分光法の研究 平成9年10月1日～12年9月30日
H09-J-62 田村 類 (助教授)	京都大学 大学院 人間環境学 研究科	キラル有機常磁性液晶の合成法の確立とその物性 平成9年10月1日～10年9月30日
H09-J-87 内藤俊雄 (講師)	北海道大学 大学院 理学研究科	磁性・伝導性の両方から興味が持たれる新規金属錯体の合成と物性 平成9年4月1日～10年3月31日
H09-J-99 佐伯 功 (助手)	北海道大学 大学院 工学研究科	高効率な太陽光-化学物質変換を目的とした亜鉛ドーブ酸化チタン半導体薄膜電極の調製と光電気化学的特性の評価 平成9年4月1日～10年3月31日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H09-J-101 幸塚 広光 (助教授)	京 都 大 学 化 学 研 究 所	無機-有機ハイブリッドポリマーの分子設計に基づく機 能性セラミックコーティング膜の厚膜化 平成9年10月1日～10年9月30日
H09-J-105 斎藤 雅樹 (研究員)	大分県産業 科学技術 センター 材料開発部	樹皮由来高機能性材料による海洋浄化技術 平成9年10月1日～10年9月30日
H09-J-113 半那 純一 (教授)	東京工業大学 工 学 部 像 情 報 工 学 研 究 施 設	反応性熱 CVD 法による多結晶 SiGe 膜の薄膜トランジ スタへの応用 平成9年8月1日～10年7月31日
H09-J-114 島田 賢也 (助手)	広 島 大 学 放 射 光 科 学 研 究 セ ン タ ー	強磁性化合物多層膜の電子状態の研究 平成9年9月1日～10年8月31日
H09-J-115 伊賀 文俊 (助教授)	広 島 大 学 理 学 部 物 性 学 科	希土類・遷移金属を配合した高融点を有する珪素ベース の新しい微小ギャップ半導体の結晶育成とその基礎物性 平成9年10月1日～10年9月30日
H09-J-124 石川 雄一 (助教授)	大 分 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	カルベン性ポルフィノイドの組織化と高スピン磁性体の 開発 平成9年10月1日～10年10月1日
H09-J-127 篠原 寛明 (助教授)	岡 山 大 学 工 学 部 生 物 機 能 工 学 科	電気化学スイッチを有する細胞接着制御ポリペプチドの 設計 平成9年10月1日～11年9月30日

平成10年度

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H10-J-01 高橋 直行 (助教授)	静 岡 大 学 工 学 部 物 質 工 学 科	原子層エピタキシー法による新紫外レーザ発光材料 ZnO 単結晶薄膜の作製 平成10年10月1日～11年9月30日
H10-J-12 安藤 康夫 (助手)	東 北 大 学 大 学 院 工 学 研 究 科	層状ペロブスカイト構造を有する有機・無機ナノコンポ ジット薄膜における光誘起による磁性と伝導に関する 研究 平成10年8月1日～11年7月31日
H10-J-13 水野 一彦 (教授)	大 阪 府 立 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	14 族元素化合物の特性を利用した光機能性有機材料の 開発 平成10年10月1日～12年3月31日
H10-J-21 那須 弘行 (助教授)	三 重 大 学 工 学 部 分 子 素 材 工 学 科	ポーリング処理を行ったガラスの光機能性 平成11年4月1日～12年3月31日
H10-J-23 増田 淳 (助手)	北陸先端科学 技術大学院大学 材料科学研究科	レーザアブレーション法と触媒化学気相成長法の融合技 術による通信波長帯域発光素子用希土類添加アモルファ スシリコン膜の作製 平成10年4月1日～11年3月31日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H10-J-24 北川 宏 (助手)	北陸先端科学 技術大学院大学 材料科学研究科	有機-無機-水素ハイブリッド固体におけるスイッチング 機能創製 平成10年10月1日～11年9月30日
H10-J-30 古曳 重美 (教授)	九州工業大学 工 学 部 物 質 工 学 科	伝導帯構造の分光学的研究 平成10年4月1日～11年3月31日
H10-J-41 渡辺 裕一 (助教授)	東京理科大学 基礎工学部 材 料 工 学 科	酸化物ガラス中の二光子吸収が誘起する光化学反応を用 いた三次元微細構造制御に関する研究 平成10年10月1日～11年9月30日
H10-J-45 西谷 滋人 (助手)	京 都 大 学 院 工 学 研 究 科	金属ケイ素化物の結合状態 平成10年10月1日～11年9月30日
H10-J-46 船戸 充 (助手)	京 都 大 学 院 工 学 研 究 科	ZnSe-GaAs ヘテロ界面への異種原子挿入効果 平成10年10月1日～11年9月30日
H10-J-58 鈴木 孝紀 (助教授)	北海道大学 大 学 院 理 学 研 究 科	動的酸化還元系を利用した分子素子の開発 平成11年4月1日～12年3月31日
H10-J-70 山本 孝夫 (助教授)	大 阪 大 学 院 工 学 研 究 科	次世代磁気冷凍作業物質をめざした磁性ナノコンポジ トの材料組織向上 平成10年10月1日～11年3月31日
H10-J-73 戸部 義人 (助教授)	大 阪 大 学 院 基 礎 工 学 研 究 科	イオン選択電極用アニオンレセプターの開発 平成10年10月1日～11年9月30日
H10-J-75 森本 正太郎 (助手)	大 阪 大 学 院 基 礎 工 学 研 究 科	高原子価鉄酸化物の局所構造と電荷分離 平成10年10月1日～11年9月30日
H10-J-78 栗原 清二 (助教授)	熊 本 大 学 院 工 学 部 物 質 生 命 工 学 科	液晶/ポリマーネットワーク超分子複合体の光相分離に よる光シャッター 平成10年10月1日～11年9月30日
H10-J-81 犬丸 啓 (助教授)	広 島 大 学 院 工 学 部 応 用 化 学 講 座	酸化物クラスター分子結晶ナノ構造体への電子ドーブに よる新規電子・磁性材料の設計 平成10年10月1日～11年9月30日
H10-J-102 宮村 一夫 (助教授)	東京理科大学 理 学 部 化 学 科	新規脂質-金属錯体複合機能性材料の開発 平成10年10月1日～11年9月30日
H10-J-105 八島 栄次 (教授)	名古屋大学 大 学 院 工 学 研 究 科	キラリティーに応答する誘起らせん高分子の合成と応用 平成10年4月1日～11年3月31日
H10-J-118 伊藤 研策 (助教授)	富 山 大 学 院 工 学 部 物 質 生 命 シ ス テ ム 工 学 科	荷電平板近傍における同符号電解質高分子の分布測定 平成10年10月1日～11年9月30日

氏名・ 職名・年齢	所属機関 学 部	研 究 課 題 研 究 期 間
H10-J-125 小 島 一 男 (助教授)	立 命 館 大 学 理 工 学 部 化 学 科	薄膜の価電子帯ならびに伝導帯の電子状態測定システムの複合化とそれを用いるエネルギー変換機能性薄膜の解析 平成10年7月1日～11年3月31日

(国立大学を初めとして各大学で、「大学院大学」に構造改革をしているが、その時期はばらばらであるため、研究者の所属名が変わっている本報告書では、一部改めたところもあるが、ほとんどのものは報告者の助成申請時に記入したものに基づく。)

研究会リーダー助成・助成一覧表

平成元年度

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H01-R-01 岩 沢 康 裕 (教授)	東 京 大 学 理 学 部 化 学 教 室	表面科学国際シンポジウム (日本表面科学会 主催) 東京/早稲田大学	1.11.29 ~1.11.30 (2 日 間)
H01-R-02 稲 木 良 昭 (講師)	大 阪 大 学 工 学 部 応 用 精 密 化 学 科	国際ミニシンポジウム：集積反応 場の多元的機能の開発 (文部省科学 研究費補助金特定研究班) 大阪市/梅田センタービル 31 階	1.12.7~1.12.8 (2 日 間)

平成2年度

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H02-R-01 砂 本 順 三 (教授)	京 都 大 学 工 学 部 高 分 子 化 学 教 室	第1回 泉フォーラム 「International Workshop on Suprahybridization between Biocomponents and Artificial Materials」 (泉科学技術振興財団主催) 滋賀県立近代美術館 / 大津市	2.11.20 ~2.11.22 (3 日 間)
H02-R-02 鈴 木 信 男 (教授)	東 北 大 学 理 学 部 化 学 科	トレースアナリシスワークショッ プ (日本分析化学会 主催) 仙台市	2.7.22 (1 日 間)
H02-R-03 篠 塚 則 子 (助手)	東 京 大 学 生 産 技 術 研 究 所	フミン物質標準試料の調製と その特性解析 (日本腐植物質研究会 主催) 名古屋市/ 愛知産業貿易会館	2.8.6 及び 2.8.9 (2 日 間)

平成3年度

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H03-R-02 原 口 ひ ろ き (教授)	名 古 屋 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	微粉体の化学的キャラクタリゼー ションの方法論 ワークショップ 北見工業大学 / 北海道北見市	3.9.1~3.9.2 (2 日 間)
H03-R-3 鈴 木 謙 爾 (教授)	東 北 大 学 金 属 材 料 研 究 所	第5回 非結晶物質の構造に関する 国際会議 (東北大学金属材料研究所主催) ホテルクレセント / 仙台市	3.9.2~3.9.6 (5 日 間)

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H03-R-04 阿部光雄 (教授)	東京工業大学 理学部 化学科	イオン交換 Post コンファレンス (シンポジウム実行委員会主催) 東京工業大学国際交流センター / 東京	3.10.7 (1 日間)
H03-R-05 松本清 (教授)	九州大学 農学部 食料化学工学科	フローインジェクション分析法の 高性能化に関する研究会 (社)日本分析化学会フローイン ジェクション分析研究懇談会主催) 同仁堂スタジオライブ / 熊本市	3.8.22~3.8.23 (2 日間)
H03-R-07 太田俊明 (教授)	広島大学 理学部 物性学科	EXAFS 国際ワークショップ (XAFS VII 組織委員会主催) 京都大学 京大会館 / 京都市	4.8.20~4.8.22 (3 日間)
H03-R-8 那須三郎 (助教授)	大阪大学 基礎工学部 物性理工学科	メスパワー分光における データ解析ワークショップ 龍谷大学理工学部大講義室 / 大津市	4.8.25 (1 日間)

平成4年度

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H04-R-02 作花済夫 (教授)	京都大学 化学研究所	ガラスの構造と生成に関する 日中国際セミナー (日本セラミックス協会 ガラス部会 主催) 京都私学会館 / 京都市	4.10.28 ~4.10.30 (3 日間)
H04-R-03 南 努 (教授)	大阪府立大学 工学部 応用化学科	第2回 泉フォーラム 「ゾル-ゲルの世界と材料科学」 (泉科学技術振興財団主催) 関西大学 / 吹田市	4.11.26 ~4.11.27 (2 日間)
H04-R-04 桜井利夫 (教授)	東北大学 金属材料研究所	走査トンネル顕微鏡とナノスケール 科学 (東北大学金属材料研究所主催) 仙台国際会議場 / 宮城県	4.9.24~4.9.26 (3 日間)
H04-R-05 田中高穂 (主任研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 第12グループ	第11回 ホウ素・ホウ化物等に 関する国際シンポジウムにおける 多ホウ化物ワークショップ (ISBB'93 組織委員会 主催) 無機材質研究所/茨城県つくば市	5.8.22~5.8.26 (5 日間)

平成5年度

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H05-R-01 赤 羽 隆 史 (主任研究官)	科 学 技 術 庁 無 機 材 質 研 究 所 第 14 研 究 グ ル ープ	第6回 低速陽電子ビーム国際ワークショップ (上記実行委員会主催) 新日本製鉄研修センター / 千葉県幕張市	6.5.19 ~6.5.22 (4 日 間)
H05-R-02 山 邊 時 雄 (教授)	京 都 大 学 部 工 学 部 科 分 子 工 学 科	第3回 機能性材料に関する日中理論化学ワークショップ (廈門大学 主催) 中華人民共和国 / 廈門市	6.11.8 ~6.11.11 (4 日 間)
H05-R-03 後 藤 武 生 (教授)	東 北 大 学 部 理 学 部 科 物 理 学 科	ナノ構造の光学的性質に関する国際会議 International Conference on Optical Properties of Nanostructures (上記国際会議組織委員会 主催) 仙台国際センター / 宮城県	6.9.19~6.9.22 (4 日 間)
H05-R-04 大 川 尚 士 (教授)	九 州 大 学 部 理 学 部 科 化 学 科	機能性多核金属錯体の分子設計 (第30回錯体化学国際会議ポストICCC シンポジウム福岡大会) (上記実行委員会 主催) 九州大学 / 福岡市	6.7.31~6.8.1 (2 日 間)

平成6年度

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H06-R-01 合 志 陽 一 (教授)	東 京 大 学 部 工 学 部 科 応 用 化 学 科	第5回 全反射条件下での蛍光X線および関連の分光法に関するワークショップ (日本分析化学会・X線分析研究懇談会 主催) 工業技術院筑波支所 / 茨城県	6.10.17 ~6.10.19 (3 日 間)
H06-R-03 松 井 敦 男 (教授)	甲 南 大 学 部 理 学 部 科 物 理 学 科	ASIA Symposium on Solid State Photophysics (光物性アジアシンポジウム) (光物性研究会組織委員会主催) 奈良県新公会堂 / 奈良市	7.11.10 ~7.11.11 (2 日 間)

平成7年度

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H07-R-01 猪 俣 吉 三 (所長)	科 学 技 術 庁 無 機 材 質 研 究 所	第12回 日韓セラミックスセミナー (上記組織・実行委員会 主催) 工業技術院筑波筑波研究センター / 茨城県	7.12.5 ~7.12.7 (3 日 間)

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H07-R-02 梅 津 光 生 (教授)	早 稲 田 大 学 理 工 学 部 機 械 工 学 科	人工臓器におけるモデリングと シミュレーション技法に関する早 稲田国際会議 (早稲田大学 主催) 早稲田大学国際会議場 / 東京	8.8.1 ~8.8.3 (3 日間)

平成 8 年度

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H08-R-03 池 田 重 良 (教授)	立 命 館 大 学 総合理工学研究機構	「学術研究機関における安全」 シンポジウム (日本学術会議・化学研究連絡委 員会・安全問題委員会 主催) 早稲田大学 / 東京都	9.5.23 (1 日間)
H08-R-04 李 相 茂 (助教授)	筑 波 大 学 物 理 学 系	「原子クラスターサイエンスの 統一的発展」国際会議 (筑波大学物理学系 主催) 筑波大学国際会議室 / つくば市	9.7.1~9.7.4 (4 日間)
H08-R-05 原 田 義 也 (教授)	千 葉 大 学 工 学 部 機 能 材 料 工 学 科	第 7 回 電子分光国際研究集会 (千葉大学 主催) 千葉大学西千葉キャンパス / 千葉市	9.9.8~9.9.12 (5 日間)
H08-R-07 宝 野 和 博 (主任研究官)	科 学 技 術 庁 金 属 材 料 技 術 研 究 所 第 3 研 究 グ ル ープ	第 44 回 国際電界放射シンポジウ ム (The 44 th IFES) (国際電界放射学会 主催) 科学技術庁金属材料技術研究所 / 茨城県	9.7.7~9.7.11 (5 日間)
H08-R-08 森 永 正 彦 (教授)	名 古 屋 大 学 工 学 部 材 料 機 能 工 学 科	第 9 回 DV-X α 研究会 (DV-X α 研究協会 主催) KKR 名古屋三の丸会館 / 名古屋市	9.8.6 ~9.8.8 (3 日間)

平成 9 年度

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H09-R-01 香 山 晃 (教授)	京 都 大 学 エ ネ ル ギ ー 理 工 学 研 究 所	SiC/SiC 複合材料の開発と核融合 炉への応用に関する研究会 (先進エネルギー材料研究会・京都 大学エネルギー理工学研究所主催) 仙台国際会議センター / 宮城県	9.10.23 ~9.10.25 (3 日間)
H09-R-03 岡 本 佳 男 (教授)	名 古 屋 大 学 大 学 院 工 学 研 究 科 応 用 化 学 専 攻	第 9 回 不斉識別に関する国際会議 (社団法人 日本化学会 主催) 名古屋国際会議場 / 愛知県	9.10.27 ~9.10.30 (4 日間)

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H09-R-04 藤 森 啓 安 (教授)	東 北 大 学 金 属 材 料 研 究 所	第4回 磁性材料の物理的諸問題 国際シンポジウム ((社) 日本応用磁気学会 主催) 仙台国際センター / 宮城県	10.8.23 ~10.8.26 (4 日 間)
H09-R-05 長 谷 川 文 夫 (教授)	筑 波 大 学 物 質 工 学 系	第2回 青色発光デバイス国際シン ポジウム (The 2 nd Int. Symp. Blue Laser and Light Emitting Diodes) (日本学術振興会第162 及び125委員会 主催) かずさアカデミアセンター / 千葉県木更津市	10.9.29 ~10.10.2 (4 日 間)
H09-R-06 潮 田 資 勝 (教授)	東 北 大 学 電 気 通 信 研 究 所	第9回 表面振動国際会議 (International Conference on Vibrations at Surfaces IX) (上記組織委員会 主催) 湘南国際村センター / 神奈川県葉山町	10.10.12 ~10.10.16 (5 日 間)

平成10年度

氏名・職名	所 属	研究会名・開催地	開 催 期 間
H10-R-01 新 原 皓 一 (教授)	大 阪 大 学 産 業 科 学 研 究 所	高次機能調和セラミックス材料に 関する国際ワークショップ (高 次インターマテリアル委員会主催) 大阪大学・銀杏会館 / 大阪府	10.10.2 ~10.10.3 (2 日 間)
H10-R-02 城 田 靖 彦 (教授)	大 阪 大 学 大 学 院 工 学 研 究 科 物 質 化 学 専 攻	第4回 機能性色素国際会議 ~ 機能性 π 電子系の科学・技術 (社団法人 近畿化学協会 主催) コスモスクエア国際交流センター / 大阪市住之江区南港	11.5.31 ~11.6.4 (5 日 間)
H10-R-03 榎 敏 明 (教授)	東 京 工 業 大 学 大 学 院 理 学 研 究 科 化 学 専 攻	第10回 層間化合物国際会議 (上記組織委員会 主催) 岡崎国立共同研究機構・ コンファレンスセンター / 愛知県岡崎市	11.5.30 ~11.6.3 (5 日 間)
H10-R-05 砂 本 順 三 (教授)	京 都 大 学 大 学 院 工 学 研 究 科 合 成 ・ 生 物 化 学 専 攻	医用高分子の最先端に関する国際 ワークショップ (先行国際シン ポジウム組織委員会 主催) (開催地: ホテルレークピワ / 滋賀県守山市)	11.7.25 ~11.7.26 (2 日 間)
H10-R-06 山 根 正 之 (教授)	東 京 工 業 大 学 大 学 院 理 工 学 研 究 科 物 質 科 学 専 攻	第10回 ゼルゲル国際ワークショ ップ ~ (10 th International Workshop on Glasses, Ceramics, Hydrides and Nanocomposites from Gels) (上記ワークショップ組織委員会 主催)(開催地: 横浜シンポジア)	11.9.19 ~11.9.24 (6 日 間)

海外研究調査出張参加助成・助成一覧表

平成元年度

氏名・職名	所 属	研究機関・目的	出張期間
H01-K-02 那 須 三 郎 (助手)	大 阪 大 学 基 礎 工 学 部 物 性 物 理 工 学 科	ザールランド大学 (ドイツ) Ulrich Gonser 教授と高温超伝 導酸化物のメスパワー測定の共同 研究	1.8.27 ～1.10.27 (62日間)
H01-K-03 田 中 裕 美 (講師)	近 畿 大 学 農 学 部 農 芸 化 学 科	The Ohio State University (アメリカ合衆国) Berl R.Oakley 教授研究室で リグニン分解酵素遺伝子のクロー ニングならびに木材腐朽機構の酵 素遺伝的解明の共同研究	1.10.1～2.9.30 (365日間)

平成2年度

氏名・職名	所 属	研究機関・目的	出張期間
H02-K-01 阿 竹 徹 (助教授)	東 京 工 業 大 学 工 業 材 料 研 究 所	ブライトン大学 (英国) において 熱化学研究調査の後、ジュネーブ 大学(スイス)Junod 教授研究室の 酸化物超伝導体の熱容量測定に関 する調査ならびに実験指導	2.8.14～2.9.4 (22日間)

平成5年度

氏名・職名	所 属	研究機関・目的	出張期間
H05-K-05 田 村 剛 三 郎 (教授)	広 島 大 学 総 合 科 学 部	リヨン大学 (フランス) 日仏国際共同研究の一環として J.Dupug-Philon 教授の要請によ る超臨界流体の局所構造の解析実 験(客員教授)	6.7.2～6.8.15 (44日間)

平成6年度

氏名・職名	所 属	研究機関・目的	出張期間
H06-K-01 古 屋 泰 文 (助手)	東 北 大 学 工 学 部 材 料 加 工 学 科	ワシントン大学 (アメリカ合衆国) 田屋教授(米国)と知的複合材料の 材料設計プロセスならびにその理 論構築に関する共同研究	6.9.28 ～6.12.28 (90日間)

平成8年度

氏名・職名	所 属	研究機関・目的	出張期間
H08-K-02 森内敏之 (助手)	大阪大学 工学部 物質化学科	カリフォルニア工科大学 (アメリカ合衆国) J.K.Barton 教授研究室において DNA と遷移金属錯体との相互作用 および電子移動に関する共同実 験ならびに米国における研究状況 の調査	8.11.1~9.9.30 (334日間)

平成9年度

氏名・職名	所 属	研究機関・目的	出張期間
H09-K-02 大塩寛紀 (助教授)	東北大学 大学院理学研究科 化学専攻	ヨハネス・ゲーテンベルグ大学 無機化学研究所 (ドイツ) 共同研究者 P. Gutlich 教授と、金 属錯体の時間分解メスパワー分光 法の測定研究	10.7.1 ~10.9.30 (92日間)

平成10年度

氏名・職名	所 属	研究機関・目的	出張期間
H10-K-01 佐々木孝彦 (助手)	東北大学 金属材料研究所	マックスプランク研究所 (ドイツ) F.Stegrich 教授研究室において Lang 教授とともに低次元伝導 体、超伝導体の合成ならびにそれ らの低温物性に関する技術交換	11.1.20 ~ 11.4.8 (80日間)

国際研究集會出張参加助成・助成一覧表

設立年度

氏名・職名	所属機関	研究集會	出張期間
S63-I-01 戸叶 一正 (主任研究官)	科学技術庁 金属材料技術研究所 第1研究グループ	1989年 米国物理学会 (アメリカ物理学会 主催) アメリカ合衆国 / ミズリー州・ セントルイス市	1.3.19~1.3.29 (11日間)
S63-I-02 佐々木高義 (主任研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 第7研究グループ	米国化学会 年会 (米国化学会 主催) アメリカ合衆国 / テキサス州・ダラス	1.4.8~1.4.21 (14日間)
S63-I-03 長崎 幸夫 (助手)	東京理科大学 基礎工学部 材料工学科	9 th International Symposium on Cationic Polymerizations and Related Ionic Process (International Union of Pure & Applied Chemistry 主催) フランス / ストラスブール	1.5.27~1.6.14 (18日間)
S63-I-04 一瀬 典男 (教授)	浜松医科大学 医学部 化学科	第11回 国際微量化学技術シンポジウム (独乙化学会 主催) ドイツ / Wiesbaden	1.8.25~1.9.8 (15日間)

平成元年度

氏名・職名	所属機関	研究集會	出張期間
H01-I-01 青野正和 (研究員)	理化学研究所	第9回イオンビーム解析国際会議 カナダ	1.6.24~1.7.1 (8日間)
H01-I-02 大塚秀幸 (研究員)	科学技術庁 金属材料技術研究所	マルテンサイト変態に関する 国際研究集會 オーストラリア	1.7.1~1.7.13 (13日間)
H01-I-03 高橋 隆 (助手)	東北大学 理学部 物理学科	高温超伝導体国際会議 アメリカ合衆国	1.7.15~1.7.30 (16日間)
H01-I-04 石原 照也 (助手)	東北大学 理学部 物理学科	第2回 国際ワークショップ: 半導体における非線型光学と励起 カイネティクス (NOEKS II 実行委員会 主催) 西ドイツ	1.11.25 ~1.12.5 (10日間)
H01-I-07 太田 昭彦 (研究室長)	科学技術庁 金属材料技術研究所	1989年 国際溶接学会 年次大会 (フィンランド組織委員会 主催) フィンランド	1.8.31~1.9.10 (11日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H01-I-08 田中順三 (主任研究官)	科学技術庁 無機材質研究所	材料の粒子間境界及び相境界に関する国際会議 (フランス国立科学研究庁/固体物理研究所 主催) フランス	1.9.3~1.9.15 (13日間)
H01-I-09 中辻博 (助教授)	京都大学 工学部 分子工学教室	「巨大分子の電子構造」に関する研究集会 (United Kingdom Science and Engineering Research Council 主催) イギリス	2.1.3~2.1.16 (14日間)
H01-I-10 横尾俊信 (助教授)	京都大学 化学研究所	6 th International Symposium on Halide Glasses (Technische Universität Clausthal 主催) 西ドイツ	1.9.30~1.10.7 (8日間)
H01-I-12 椋田登美男 (助手)	大阪大学 理学部 数学科	UAB International Conference on Differential Equations and Mathematical Physics (アラバマ大学バーミンガム校 主催) アメリカ合衆国 / アラバマ州	2.3.13~2.3.24 (12日間)
H01-I-13 和田山智正 (助手)	東北大学 工学部 材料物性学科	第5回 International Conference on Solid Films and Surfaces (Brown Univ. & Univ. of Rhode Island 主催) アメリカ合衆国 / Rhode Island 州	2.8.11~2.8.19 (9日間)
H01-I-14 田中吉秋 (研究員)	科学技術庁 金属材料技術研究所 筑波支所	第7回セラミックス国際会議 高温超電導体シンポジウム (Academy of Ceramics 他共催) イタリア / トリエステ市	2.6.30~2.7.10 (11日間)
H01-I-15 佐々木泰造 (研究員)	科学技術庁 金属材料技術研究所 基礎物性研究部	第20回 半導体物理学国際会議 (半導体物理学国際会議組織委員会 主催) ギリシャ / セサロニキ市	2.8.4 ~2.8.12 (9日間)
H01-I-16 太刀川恭治 (教授)	東海大学 工学部 金属材料工学科	1990年度 国際低温材料会議::高温超電導体の材料科学 (国際低温材料会議 主催) 西ドイツ / カルミッシュパ-テ-ンベルン	2.5.7~2.5.16 (10日間)

平成2年度

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H02-I-01 小田雅司 (教授)	大阪大学 理学部 化学科	第10回 IUPAC 物理有機化学会議 (IUPAC 国際純粋応用化学連合 イスラエル化学会 主催) イスラエル / ハイファ	2.8.4~2.8.15 (12日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H02-I-03 梅原雅捷 (主任研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 第4研究グループ	第35回 磁性と磁性材料に関する 国際会議 (アメリカ物理学会・ 磁気学会 主催) アメリカ合衆国/カリフォルニア	2.10.28 ～2.11.8 (12日間)
H02-I-05 竹腰清乃理 (助手)	北海道大学 理学部 高分子学科	Congress Ampere on Magnetic Resonance (アンペア会議 主催) 西ドイツ / シュツットガルト	2.9.8～2.9.16 (9日間)
H02-I-06 田中信夫 (助教授)	名古屋大学 工学部 応用物理学科	5 th International Symposium on Small Particles and Inorganic Clusters (University of Konstanz 主催) 西ドイツ / コンスタンツ	2.9.4～2.9.20 (17日間)
H02-I-07 伊藤秀章 (助教授)	名古屋大学 工学部 附属 人工結晶研究施設	第2回 ニューダイヤモンド科学 技術国際会議 (上記国際会議組織委員会 主催) アメリカ合衆国 / ワシントンD.C.	2.9.23～2.9.29 (7日間)
H02-I-08 神谷秀博 (助手)	名古屋大学 工学部 化学工学科	The 2 nd International Ceramics Science and Technology Con- gress "Symposium on Compo- sites" (The American Ceramics Society 主催) アメリカ合衆国	2.11.10 ～2.11.24 (14日間)
H02-I-09 吉尾哲夫 (助教授)	岡山大学 工学部 基礎工学講座	第43回環太平洋地域国際会議(43 rd Pacific Coast Regional Meeting) (The American Ceramics Socie- ty 主催) アメリカ合衆国/シアトル・ワシントン	2.10.22 ～2.11.1 (11日間)
H02-I-10 腰原伸也 (助手)	東京大学 理学部 物理学科	合成金属の科学技術に関する 国際会議 (上記会議組織委員会・ドイツ化学 協会 主催) 西ドイツ / チュービンゲン	2.8.31～2.9.13 (14日間)
H02-I-11 今井正直 (助手)	東京農工大学 工学部 物質生物工学科	4 th Bio-Reverse Micelle Work- shop (EHT-Zentrum, Institute fur Polymere 主催) スイス / チューリッヒ	3.4.1～3.4.14 (14日間)
H02-I-12 澤田達男 (専任講師)	慶応義塾大学 理工学部 機械工学科	International Conference on Physiological Fluid Dynamics (Indian Institute of Technology, Madras 主催) インド / マドラス	3.7.18～3.7.31 (14日間)
H02-I-13 竹田美和 (助手)	京都大学 工学部 電気工学科	The 18 th International Symposi- um on Gallium Arsenide and Related Compounds (上記シンポジウム組織委員会及び 実行委員会 主催) アメリカ合衆国 / シアトル	3.9.2～3.9.17 (16日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H02-I-14 森 康 維 (助手)	京 都 大 学 工 学 部 化 学 工 学 科	第7回 表面とコロイド科学国際 会議(コロイドと界面科学者国際組 織・国際純粋応用化学連合 共催) フランス / Compiègne	3.7.5~3.7.18 (13日間)
H02-I-15 伊 藤 義 勝 (助手)	京 都 大 学 工 学 部 合 成 化 学 教 室	第10回 有機固相化学国際会議 (有機固相化学国際会議 主催) カナダ /バンクーバー	3.7.6 ~3.7.30 (25日間)
H02-I-16 中 村 義 男 (教授)	北 海 道 大 学 理 学 部 化 学 第 2 学 科	Gordon Research Conference on Molten Salts and Liquid Metals (Gordon Research Center 主催) アメリカ合衆国 /ニューハンプシャー	3.8.3~3.8.11 (9日間)
H02-I-18 渡 辺 和 雄 (助教授)	東 北 大 学 金 属 材 料 研 究 所	超伝導体における臨界電流の 第6回国際ワークショップ (英国 ケンブリッジ大学 主催) イギリス /ケンブリッジ	3.7.6~3.7.14 (9日間)
H02-I-19 藤 井 忠 行 (主任研究官)	科 学 技 術 庁 金 属 材 料 技 術 研 究 所 組 織 制 御 研 究 部	多結晶材料の結晶粒成長に関する 国 際 会 議 (International Conference on Grain Growth in Polycrystalline Materials) (イタリア金属学会・イタリア材料 科学研究所 主催)イタリア /ローマ	3.6.16~3.6.23 (8日間)
H02-I-20 桜 井 健 次 (研究員)	科 学 技 術 庁 金 属 材 料 技 術 研 究 所 計 測 解 析 研 究 部	X線分析手法に関する環太平洋国 際 会 議 (Pacific-International Congress on X-Ray Analytical Methods) (デンバーX線会議・オーストラリ アX線分析協会・日本分析化学 会・X線分析研究懇談会主催) アメリカ合衆国 / ホノルル	3.8.11~3.8.18 (8日間)
H02-I-21 寺 井 隆 幸 (助教授)	東 京 大 学 工 学 部 原 子 力 工 学 科	(1)第6回層間化合物国際会議 (上記組織委員会 主催) フランス / オルレアン (2)第2回核融合炉工学国際会議 (上記組織委員会 主催) ドイツ連邦共和国 /カールスルーエ	3.5.25~3.6.17 (24日間)

平成3年度

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H03-I-02 室 賀 健 夫 (助教授)	九 州 大 学 応 用 力 学 研 究 所	第5回 核融合炉材料国際会議 (アメリカ合衆国エネルギー省・ アメリカ原子力学会 主催) アメリカ合衆国 / フロリダ州	3.11.16 ~3.11.25 (10日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H03I-03 網島良祐 (助手)	京都大学 化学研究所 材料物性基礎 研究部門	第27回 高分子物理に関する 欧州物理学会議 (欧州物理学会・高分子物理学支部 主催) ギリシャ / クレタ・ヘラクリオン	3.9.21 ~3.10.8 (18日間)
H03-I-04 吉澤雅幸 (助手)	東京大学 理学部 物理学科	International Symposium on Ultrafast Processes in Spectroscopy (European Physical Society主催) ドイツ / パイロイト大学	3.10.5 ~3.10.19 (15日間)
H03-I-05 山川浩二 (助教授)	広島大学 工学部 応用物理化学科	核融合炉材料国際会議 (ICFRM 5 主催) アメリカ合衆国 / フロリダ	3.11.16 ~3.11.30 (15日間)
H03-I-06 佐々木陽一 (教授)	北海道大学 理学部 化学第二学科	英国王立化学会 無機化学反応討論会 (英国王立化学会 主催) イギリス / ヨーク市	3.12.9 ~3.12.19 (11日間)
H03-I-07 河村純一 (講師)	北海道大学 理学部 化学第二学科	第8回 固体イオニクス国際会議 (SSI-8 Organizing Committee 主催) カナダ / シャトー・ルイーズ湖	3.10.17 ~3.10.31 (15日間)
H03-I-08 赤木和夫 (助教授)	筑波大学 物質工学系	Speciality Polymers '91 (Speciality Polymers '91・ Butterworth Scientific Ltd.主催) ドイツ / マックス-プランク研究所 高分子研究部門(マインツ)	3.9.27 ~3.10.5 (9日間)
H03-I-09 吉本護 (講師)	東京工業大学 工学材料研究所	International Workshop on Chemistry and Technology of High-Temperature Superconductors (ソ連科学アカデミー・モスクワ州 立大学 主催) ソビエト社会主義共和国連邦	3.10.13 ~3.10.20 (8日間)
H03-I-10 真壁利明 (教授)	慶応義塾大学 理工学部 電気工学科	(1) GEC 91 (Annual Gaseous Electronics Conference (2) 38 th AVS(Annual Symp. of Amer.Vacuum Society ((1)Amer.Phys.Society 主催 / (2)Amer.Vacuum Sociey 主催) アメリカ合衆国 / (1)Albuquerque, New Mexico (2)Seattle, Wshington	3.10.21 ~3.11.17 (28日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H03-I-11 赤石 實 (主任研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 超高圧カステーション	第4回 硬質物質の科学に関する 国際会議 (ICSHM-4) (上記会議組織委員会 主催) ポルトガル / マディアラ	3.11.8 ~3.11.22 (14日間)
H03-I-12 小林 典男 (教授)	東北大学 金属材料研究所	高温超電導材料に関する第3回 日米ワークショップ (新超電導材料研究会(未踏科学技術 協会)・米国 NIST ・米国 DOE 主 催)アメリカ合衆国 /メリーランド州	3.11.24 ~3.12.7 (14日間)
H03-I-13 鈴木 孝紀 (助手)	東 北 大 学 理 学 部 化 学 科	7 th International Symposium on Novel Aromatic Compounds 第7回新規芳香族化合物に関する 国際シンポジウム (カナダ化学会・IUPAC 主催) カナダ / ビクトリア市	4.7.18~4.7.25 (8日間)
H03-I-17 菅原 義之 (専任講師)	早 稲 田 大 学 理 工 学 部 応 用 化 学 科	Materials Research Society 1992 Spring Meeting (Materials Research Society 主催) アメリカ合衆国 /サンフランシスコ	4.4.25~4.5.3 (9日間)
H03-I-19 土佐 正弘 (主任研究官)	科学技術庁 金属材料技術研究所 表面界面制御研究部	第12回 国際真空会議 及び 第8回 固体表面国際会議 (IVC 12 & ICSS 8) (オランダ真空協会 主催) オランダ / ハーグ市	4.10.11 ~4.10.18 (8日間)
H03-I-20 小口 信行 (研究室長)	科学技術庁 金属材料技術研究所 表面界面制御研究部	第7回 分子線エピタキシイ国際会議 (物理学会・結晶成長学会 主催) ドイツ共和国 / Schwabisch	4.8.22 ~2.8.30 (9日間)
H03-I-21 田中 清明 (助教授)	名古屋工業大学 工 学 部 化 学 教 室	ゴードン会議 「電子分布と化学結合」 (Gordon Research Conferences 主催) アメリカ合衆国 /ニューハンプシャー	4.7.19~4.8.8 (21日間)

平成4年度

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H04-I-01 石野 義夫 (研究主任)	大阪市立工業研究所 有機化学課	The 3 rd International Conference on Heteroatom Chemistry (IUPAC ・ Universita di Bologna 主催) イタリア / Riccone 市	4.6.3~4.6.16 (14日間)
H04-I-02 徳田 正孝 (教授)	三 重 大 学 工 学 部 機 械 工 学 科	Asian-Pacific Symp. on Ad- vances in Engineering Plasticity and It's Applications (塑性力学とその応用に関するア ジア・太平洋シンポジウム) (Hong Kong Polytechnic 主催) 香 港 / Hung Hom	4.12.13 ~4.12.20 (8日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H04-I-03 井上祥平 (教授)	東京大学 工学部 合成化学科	開環重合に関する IUPAC シンポジウム (国際純正応用化学連合 IUPAC 主催) ポーランド / ワルシャワ	4.7.5~4.7.12 (8日間)
H04-I-04 木村一弘 (研究員)	科学技術庁 金属材料技術研究所 環境性能研究部	工業材料と構造のクリープ破壊に関する第5回国際会議 (英国金属学会 主催) イギリス / スウオンジー	5.3.27~5.4.4 (9日間)
H04-I-05 佐藤洋一郎 (総合研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 第8研究グループ	第3回 ニューダイヤモンド国際会議 3 rd International Conference on the New Diamond Science & Technology (ICNDST-3) (ニューダイヤモンド国際会議組織委員会 主催) ドイツ / ヘイデルベルグ	4.8.30~4.9.12 (14日間)
H04-I-08 堀内繁雄 (総合研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 第4研究グループ	第5回 フルラス太平洋シンポジウム (米国セラミックス学会 第45回太平洋岸地域講演会) (フルラス太平洋賞委員会主催) アメリカ / サンフランシスコ	4.10.31 ~4.11.7 (8日間)
H04-I-10 伊藤嘉昭 (助手)	京都大学 化学研究所	Solid State Ionics (Material Research Society 主催) アメリカ / ボストン	4.11.28 ~4.12.6 (9日間)
H04-I-14 大津元一 (教授)	東京工業大学 大学院 総合理工学研究科 物理情報工学専攻	International Workshop on Near Field Optics and Related Techniques (フランス文部省/ブザンソンマイクロ技術研究所/フランス技術研究省/NATO/フランス・コンテ大学 主催) フランス / ブザンソン市	4.10.25 ~4.10.30 (6日間)
H04-I-15 川畑祐司 (助教授)	九州大学 工学部 応用物質化学科	Chemical, Biochemical, and Environmental Fiber Sensors IV (The Society for Photo-Optical Engineering 主催) アメリカ合衆国 / ボストン	4.9.6~4.9.16 (11日間)
H04-I-21 岡本佳男 (教授)	名古屋大学 工学部 応用化学科	第3回 不斉識別に関する国際シンポジウム (ドイツ化学会 主催) ドイツ / チュービンゲン	4.10.3 ~4.10.10 (14日間)
H04-I-22 井上順一郎 (助教授)	名古屋大学 工学部 応用物理学科	Symposium on Magnetic Ultra thin films, Multilayers and Surfaces (ヨーロッパ MR 主催) フランス / リヨン・グルノーブル	4.9.5~4.9.14 (9日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H04-I-32 神田久生 (主任研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 第8研究グループ	ダイヤモンド会議 / ブリストル 1993 Diamond Conference Bristol 1993 (Diamond Research Committee 主催) イギリス / ブリストル市	5.7.9 ~5.7.18 (10日間)
H04-I-33 大久保恒夫 (助教授)	京都大学 工学部 高分子化学科	第205回 アメリカ化学会年会 「高分子電解質」特別シンポジウム (アメリカ化学会 主催) アメリカ合衆国 / コロラド州・ デンバー市	5.3.20~5.4.6 (18日間)
H04-I-34 田中一義 (助教授)	京都大学 工学部 分子工学科	ゴードン・リサーチ・コンファレンス (Gordon Research Conference 主催) イタリア / イルチョッコ市	5.5.7~5.5.17 (11日間)
H04-I-39 西田哲明 (助手)	九州大学 理学部 化学科	メスバウアー効果の応用に関する 国際会議 (上記国際会議組織委員会 主催) カナダ / バンクーバー	5.8.6~5.8.17 (12日間)
H04-I-40 浦上 忠 (教授)	関西大学 工学部 教養化学科	The 1993 International Congress on Membranes and Membrane Processers (The European Society of Membrane Science and Technology 主催) ドイツ / ハイデルベルグ	5.8.21~5.9.5 (15日間)

平成5年度

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H05-I-04 羽田 肇 (主任研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 第1研究グループ	The 6 th U.A.-Japan Seminar on Dielectric and Piezoelectric Ceramics (上記セミナー実行委員会 主催) アメリカ合衆国 / マウイ島(ハワイ)	5.11.9 ~5.11.15 (7日間)
H05I-08 奥 淳一 (講師)	名古屋工業大学 工学部 応用化学科	POLYMEX-93 ; International Symposium on Polymers (Institute de Investigaciones en Materiales, UNAM, & Division de Polimeres, La Sociedad Química de Mexico 主催) メキシコ / カンクン	5.10.30 ~5.11.10 (12日間)
H05-I-09 細野秀雄 (助教授)	名古屋工業大学 工学部 材料工学科	Pac. Rim. Ceramics Meeting (環太平洋セラミックス会議) (アメリカ セラミックス学会主催) アメリカ合衆国 / ハワイ	5.11.5 ~5.11.11 (7日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H05-I-10 小林 雅通 (教授)	大阪大学 理学部 高分子学科	Beijing Symposium on Polymer Physics (高分子物理学に関する北京シンポジウム) (北京シンポジウム組織委員会主催) 中国 / 北京市	5.10.24 ～5.10.31 (8日間)
H05-I-11 渡辺 英雄 (助手)	九州大学 応用力学研究所	第6回 核融合炉材料国際会議 (ICFRM-6) (アメリカ合衆国エネルギー省・アメリカ原子力学会 主催) イタリア / ストレーサ	5.9.26～5.10.4 (9日間)
H05-I-12 三浦 秀士 (助教授)	熊本大学 工学部 材料開発工学科	'93 Powder Injection Molding Symposium (The Metal Powder Industries Federation 主催) アメリカ合衆国 / Boulder(Colorado)	5.10.2 ～5.10.11 (10日間)
H05-I-13 木原 伸浩 (助手)	東京工業大学 資源化学研究所	POLYMEX-93 ; International Symposium on Polymers (Instituto de Investigaciones en Materiales, UNAM 主催) メキシコ / Cancun, Quintana Roo	5.10.31 ～5.11.7 (8日間)
H05-I-15 後藤 孝 (助教授)	東北大学 金属材料研究所	1993 Pac Rim Meeting (The American Ceramic Society 主催) アメリカ合衆国 / Hilton Hawaiian Village Hotel, Honolulu, Hawaii	5.11.6 ～5.11.12 (7日間)
H05-I-16 橋詰 富博 (助教授)	東北大学 金属材料研究所	第40回 アメリカ真空学会シンポジウム (AVS) (アメリカ真空学会 主催) アメリカ合衆国 / フロリダ州	5.11.10 ～5.11.21 (12日間)
H05-I-20 清水 康博 (助教授)	長崎大学 工学部 材料工学科	セラミックプロセッシング科学技術国際会議 (ドイツセラミックス学会 主催) ドイツ / Friedrichshafen	6.9.10～6.9.17 (8日間)
H05-I-24 吉川 信一 (助教授)	大阪大学 産業科学研究所	Forum on New Materials (8 th Cimtec 主催) イタリア / Florence	6.6.28～6.7.14 (17日間)
H05-I-25 田中 順三 (主任研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 第10研究グループ	1994年インテリジェント材料国際会議 (ICIM-1994) (上記委員会/ Virginia Tech. Univ., USA 主催) アメリカ合衆国 / Williamsburg, Virginia	6.6.2～6.6.10 (9日間)
H05-I-27 細川 伸也 (助教授)	広島大学 理学部 物性学科	第6回 非結晶物質の原子配列に関する国際会議 (チェコ科学院物理学研究所 主催) チェコ共和国 / プラハ	6.8.22～6.9.4 (14日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H05-I-29 今 中 信 人 (講師)	大 阪 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	The 5 th International Meeting on Chemical Sensors (Univ.of Rome "Tor Vergata", "La Sapienza" CNR-I.ESS: Institute of Solid State Electronics CNR-Finalized Project MST A 主催) イタリア / Pontificia Univ.di San Tommaso (Rome)	6.7.10~6.7.16 (7 日 間)
H05-I-31 谷 口 功 (教授)	熊 本 大 学 工 学 部 応 用 化 学 科	第 185 回 アメリカ電気化学会 (アメリカ電気化学会、有機・ 生物電気化学部会 主催) アメリカ合衆国/サンフランシスコ	6.5.20~6.5.29 (1 0 日 間)
H05-I-32 古 林 孝 夫 (主任研究官)	科 学 技 術 庁 金 属 材 料 技 術 研 究 所 機 能 特 性 研 究 部	1994 年 磁 性 国 際 会 議 (国際純粋及び応用物理学連合 ・ IUPAP 主催) ポーランド / ワルシャワ	6.8.21~6.8.28 (8 日 間)

平成6年度

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H06-I-01 川 口 正 美 (助教授)	三 重 大 学 工 学 部 分 子 素 材 工 学 科	International Symposium "Polymers at the Phase Boundary" (Ukrainian Academy of Science 主催) ウクライナ共和国 / Lviv	6.10.24 ~6.10.30 (7 日 間)
H06-I-02 堀 勝 (講師)	名 古 屋 大 学 工 学 部 電 子 情 報 学 科	The 47 th Annual Gaseous Electronics Conference (アメリカ物理学会 主催) アメリカ合衆国 / ガイゼースバーグ (メリーランド州)	6.10.15 ~6.10.25 (1 1 日 間)
H06-I-05 中 村 潤 児 (講師)	筑 波 大 学 物 質 工 学 系	Gordon Research Conference : The Science of Hydrocarbon at Molecular Level (Gordon Research Conference 財団 主催) アメリカ合衆国 / オアフ(ハワイ)	6.11.6 ~6.11.11 (6 日 間)
H06-I-06 斎 藤 晋 (助教授)	東 京 工 業 大 学 理 学 部 物 理 学 科	1994 Fall Meeting of the Materials Research Society Symposium: Microcrystalline and Nanocrystalline Semi- conductors (The Materials Research Society 主催) アメリカ合衆国 / ボストン市	6.11.27 ~6.12.4 (8 日 間)
H06-I-07 福 本 昌 宏 (助教授)	豊 橋 技 術 科 学 大 学 工 作 セ ン タ ー	第 3 回 傾斜機能材料国際シンポジウム (FGM '94) (ヨーロッパ連合材料学会 主催) スイス / ローザンヌ	6.10.8 ~6.10.20 (1 3 日 間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H06-I-10 小田 俊理 (助教授)	東京工業大学 工学部 電子物理工学科	'94 Materials Research Society: Fall Meeting (The Materials Research Society 主催) アメリカ合衆国 / ポストン	6.11.27 ～6.12.4 (8日間)
H06-I-11 平山 秀樹 (研究員)	理化学研究所 半導体工学研究室	International Semiconductor Laser Conference (The IEEE Lasers and Electro- Optics Society 主催) アメリカ合衆国 / マウイ(ハワイ)	6.9.18～6.9.22 (5日間)
H06-I-12 魚崎 浩平 (教授)	北海道大学 理学部 化学科	ELECTROCHEM '94 (英国王立化学会・化学工業協会 主催) イギリス / エジンバラ大学	6.9.6～6.9.18 (13日間)
H06-I-14 宮崎 則幸 (助教授)	九州大学 工学部 化学機械工学科	ASME 1994 WAM Symposia on Materials & Mechanics in Electronic Packaging for 21 st Century (米国機械学会(ASME)・ 日本機械学会(JSME) 主催) アメリカ合衆国/イリノイ州シカゴ市	6.11.5 ～6.11.13 (9日間)
H06-I-15 笹田 一郎 (助教授)	九州大学 工学部 電子工学科	The 1994 Fall Meeting of the Materials Research Society (Materials Research Society 主催) アメリカ合衆国 / ポストン	6.11.27 ～6.12.8 (12日間)
H06-I-23 北村 健二 (研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 第13研究グループ	第11回 結晶成長国際会議 (The 11 th International Confer- ence on Crystal Growth) (国際結晶成長学会・オランダ結 晶成長学会 主催) オランダ / ハーグ市	7.6.17～7.7.1 (15日間)
H06-I-27 木村 恵一 (助教授)	大阪大学 工学部 プロセス工学専攻	第3回 機能性色素国際会議 (カリフォルニア大学 主催) アメリカ合衆国 /サンタクルーズ(カリフォルニア州)	7.7.11～7.7.21 (12日間)
H06-I-28 田村 剛三郎 (教授)	広島大学 総合科学館	第9回 液体およびアモルファス金 属国際会議 (米国アルゴンヌ国立研究所主催) アメリカ合衆国 / シカゴ市	7.8.26～7.9.2 (8日間)
H06-I-30 木村 薫 (助教授)	東京大学 工学部 材料学科	第5回 準結晶国際会議 (フランス国立科学研究センター (CNRS) 主催) フランス / アビニオン	7.5.20～7.6.3 (15日間)
H06-I-31 淡路 智 (助手)	東北大学 金属材料研究所 強磁場超伝導材料 研究センター	第14回 マグネット工学に関する国際会議 (Tanbere Univ.of Technology 主催) フィンランド / タンベレ	7.6.10～7.6.19 (10日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H06-I-36 真下 茂 (助教授)	熊本大学 工学部 衝撃エネルギー実験所	(1)1995 APS Conf. Shock Compres.of Condensed Matter (2)Internat.Conf.Met.Mat.Appl.S hock Wave & High Strain Phenomena (1)(アメリカ物理学会 主催) (2)(テキサス大学・ロスアラモス 研究所/カリフォルニア大学主催) アメリカ合衆国 / (1) シアトル市 (2) エルパソ市	7.8.4~7.8.25 (22日間)
H06-I-39 中嶋直敏 (教授)	長崎大学 工学部 応用化学科	The 46 th Annual Meeting of the International Society of Electrochemistry (第46回国際 電気化学会) (International Society of Electrochemistry 主催) 中華人民共和国 / Xiamen	7.8.24~7.9.2 (10日間)

平成7年度

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H07-I-03 中村尚武 (教授)	立命館大学 理工学部 化学科	第2回 AsCA '95 アジア結晶学連合 会議 (2 nd Conference of the Asian Crystallographic Association) (The Asian Crystallographic Association, IUCr. 主催) タイ / Bangkok	7.11.19 ~7.11.26 (8日間)
H07I-04 飴山 恵 (助教授)	立命館大学 理工学部 機械工学科	The 8 th World Conference on Titanium (The Institute of Materials 主催) イギリス / Birmingham	7.10.21 ~7.10.27 (7日間)
H07-I-10 原田広史 (室長)	科学技術庁 金属材料技術研究所 材料設計研究部	原子配置の設計と評価に関する ワークショップ (ケンブリッジ大学 主催) イギリス / ケンブリッジ	8.2.4 ~8.2.11 (8日間)
H07-I-11 大嶋建一 (教授)	筑波大学 物理工学系	第2回 AsCA アジア結晶学連合会議 (アジア結晶学連合主催) タイ / (Chulalongkon 大学) Bangkok	7.11.21 ~7.11.27 (7日間)
H07-I-14 長谷川幸雄 (助教授)	東北大学 金属材料研究所	第42回 アメリカ真空学会年会 (アメリカ真空学会 主催) アメリカ合衆国 /ミネアポリス(ミネソタ州)	7.10.8 ~7.10.22 (15日間)
H07-I-19 逆井基次 (教授)	豊橋技術科学大学 工学部 物質工学系	アメリカ セラミックス学会 太平洋岸地域会議 (アメリカセラミックス学会主催) アメリカ合衆国 / シアトル市 (ワシントン州)	7.10.29 ~7.11.8 (11日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H07-I-32 平井隆之 (助手)	大阪大学 基礎工学科 化学工学科	International Solvent Extraction Conference '96 (国際溶媒抽出会議事務局・オーストラリア科学アカデミー 主催) オーストラリア / メルボルン	8.3.13 ~8.3.23 (11日間)
H07-I-33 斎藤弥八 (助教授)	三重大学 工学部 電気電子工学科	Fall Meeting of the Material Research Society, 1995 (Material Research Society 主催) アメリカ合衆国 / ポストン	7.11.26 ~7.12.3 (8日間)
H07-I-35 長谷川 功 (助手)	岐阜大学 工学部 応用化学科	Symposium on Nanostructured Materials, American Chemical Society, 1995 Fall Meeting (Division of Polymeric Materials: Science & Engineering, American Chemical Society 主催) アメリカ合衆国/イリノイ州シカゴ市	7.8.18 ~7.8.31 (14日間)
H07-I-36 赤阪 健 (助教授)	筑波大学 化学系	フラーレンに関する第8回シンポジウム(Fullerene: Chemistry, Physics, and New Directions VIII Symposium) (米国電気化学会 主催) アメリカ合衆国 / Los Angeles	8.5.3 ~8.5.12 (10日間)
H07-I-38 関口隆史 (助手)	東北大学 金属材料研究所	「走査顕微鏡と半導体; 手法と診断」シンポジウム (国際走査顕微鏡学会 主催) アメリカ合衆国 バセスタ (ワシントン DC)	8.5.10 ~8.5.21 (12日間)
H07-I-40 伊藤 正 (教授)	東北大学 工学部 応用物理学科	第10回 ルミネッセンス国際会議 The 10 th International Conference on Luminescence and Optical Spectroscopy of Condensed Matter(ICL '96) (チェコ科学アカデミー 主催) チェコ共和国 / 文化宮殿(プラハ市)	8.8.13 ~8.8.30 (18日間)
H07-I-43 田村 類 (助教授)	北海道大学大学院 地球環境科学研究科 物質環境科学専攻	第8回 不斉識別に関する国際シンポジウム (The 8 th International Symposium on Chiral Discrimination (英国クロマトグラフ協会主催) イギリス / エジンバラ市	8.6.29 ~8.7.7 (9日間)
H07-I-45 加茂陸和 (研究官)	科学技術庁 無機材質研究所	第3回 ダイヤモンド薄膜国際シンポジウム (上記組織委員会 主催) ロシア / セントペテルスブルグ	8.6.22 ~8.7.7 (16日間)
H07-I-50 小林幹彦 (研究官)	科学技術庁 金属材料技術研究所 第5研究グループ	The 3 rd International Conference on Intelligent Materials (Institut National des Sciences Appliquees de Lyon 主催) フランス / リヨン	8.6.2 ~8.6.7 (6日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H07-I-51 前田 瑞夫 (教授)	九州大学 工学部 応用物質化学科	The 212 th ACS Meeting ; 化学センサとバイオセンサに関するシンポジウム (アメリカ化学会 主催) アメリカ合衆国 / オーランド市	8.8.21~8.9.1 (12日間)
H07-I-52 高原 淳 (助教授)	九州大学 工学部 応用物質化学科	走査型プローブ顕微鏡の高分子への応用に関するシンポジウム (アメリカ化学会高分子化学部門主催)アメリカ合衆国 / オーランド市	8.8.22~8.8.31 (10日間)
H07-I-54 井上 光輝 (助教授)	豊橋技術科学大学 工学部 電気電子工学系	'96 光磁気記録国際シンポジウム MORIS '96 (Magneto Optical Recording International Symposium '96) (上記実行委員会・日本応用磁気学会・IEEE 磁気学会 主催) オランダ / Leeuwenhorst Conference Center, Noordwijkerhout	8.4.28~8.5.3 (6日間)

平成8年度

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H08-I-03 宮崎 照宣 (教授)	東北大学 工学部 応用物理学科	第41回 磁性並びに磁性材料国際会議 (上記学会・アメリカ物理学会・アメリカ磁気応用学会 共催) アメリカ合衆国 / アトランタ	8.11.10 ~8.11.21 (12日間)
H08-I-05 小国 正晴 (教授)	東京工業大学 理学部 化学科	Glasses and Glass Formers · Current Issues (Materials Research Society 主催) アメリカ合衆国 / ボストン市	8.11.30 ~8.12.8 (9日間)
H08-I-06 榎 敏明 (教授)	東京工業大学 理学部 化学科	第9回 錯塩化学冬の学校 国際会議 (ポーランド化学会 主催) ポーランド / カルパツ	8.12.7 ~8.12.16 (10日間)
H08-I-08 稲熊 宜之 (助手)	東京工業大学 応用セラミックス 研究所	Meeting of the Materials Research Society Symposium R: Solid State Chemistry of Inorganic Materials (Materials Research Society 主催) アメリカ合衆国 / ボストン	8.11.29 ~8.12.8 (10日間)
H08-I-10 大谷 肇 (助教授)	名古屋大学 理工科学総合研究 センター/総合基礎科学	第12回 分析的及び応用熱分解に関する国際シンポジウム (上記組織委員会 主催) イタリア / ベネチア	8.10.12 ~8.10.20 (9日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H08-I-13 辻 伸泰 (助手)	大阪大学 工学部 材料物性工学科	The 5 th International Conference on Technology of Plasticity (Engineering Research Center for Net Shape Manufacturing, JSTP(日本塑性加工学会), IDDRG,ICFG,SME,CIRP 主催) アメリカ合衆国 / Columbus(Ohio)	8.10.6 ~8.10.12 (7日間)
H08-I-14 佐々木陽一 (教授)	北海道大学 大学院理学研究科 化学専攻	Gordon Research Conference (Gordon Research Conference 委員会 主催) アメリカ合衆国 / Harbortown Marina Resort(California)	9.3.1 ~9.3.13 (13日間)
H08-I-16 今村 平 (助教授)	北海道大学 大学院理学研究科 化学専攻	第5回 ユーラシア化学会議 (EuAsCzS-5) (中国化学会 主催) 中国 / 広東省広州	8.12.9 ~8.12.19 (11日間)
H08-I-17 小田垣 孝 (教授)	九州大学 理学部 物理学科	1996 Fall Meeting of the Materials Research Society (Materials Research Society 主催) アメリカ合衆国 / Boston	8.12.1 ~8.12.12 (12日間)
H08-I-19 植本昌則 (助教授)	北海道大学 工学部 システム情報工学専攻	第5回 高温超電導国際会議(The 5 th Int. Conf. Materials & Mechanisms of Superconductivity High-Tc Superconductors) (上記国際組織委員会・中国科学アカデミー 主催) 中国 / 北京市	9.2.27 ~9.3.8 (10日間)
H08-I-21 古川保典 (主任研究官)	科学技術庁 無機材質研究所 第13研究グループ	CLEO '97 (Conference on Lasers and Electro-Optics '97) (ISEE/Lasers & Electro-Optics Society, OSA 共催) アメリカ合衆国 / バルチモア	9.5.17 ~9.5.29 (13日間)
H08-I-23 高田 潤 (教授)	岡山大学 工学部 精密応用化学科	The 14 th International Plansee Seminar '97 (Plansee AG 主催) オーストリア / Reutte, Tyrol	9.5.10 ~9.5.18 (9日間)
H08-I-24 佐藤博彦 (助手)	東京工業大学 理学部 化学科	第12回 遷移元素固体化合物 国際会議 (レンヌ大学無機固体化学研究所 主催) フランス / サンマロ	9.4.21 ~9.4.30 (10日間)
H08-I-26 吉武道子 (主任研究官)	科学技術庁 金属材料技術研究所 極高真空場ステーション	ECASIA '97(第7回表面界面分析の応用に関するヨーロッパ会議) (Chalmers University of Technology 主催) スエーデン / Goeteborg	9.6.15 ~9.6.22 (8日間)
H08-I-27 初貝安弘 (助教授)	東京大学 大学院工学系研究科 物理工学専攻	Japanese-Israel Binational Workshop on Interaction and Disorder Effects in Low-Dimensional Electronic Systems (Ben Gurion University 主催) イスラエル / Beer-Sheva	9.5.3 ~9.5.10 (8日間)

平成9年度

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H09-I-05 モシニヤガ・ ワシリー (講師)	京都大学 大学院工学研究科 電子通信工学科	1997 IEEE International ASIC Conference and Exhibit (1997年 度専用集積回路に関する国際会議と展 示会) (IEEE 米国電気電子学会 主催) アメリカ合衆国 /Portland/Oregon	9.9.6 ~9.9.12 (7日間)
H09-I-06 宮地史明 (助手)	京都大学 大学院工学研究科 材料化学専攻	第10回 医用セラミックス国際会 議 (上記国際会議組織委員会主催) フランス / パリ	9.10.4 ~9.10.13 (10日間)
H09-I-09 内藤裕義 (助教授)	大阪府立大学 工学部 電子物理工学科	第17回 非晶質および微結晶半導 体に関する国際会議 (国際純物理および応用物理連合 主催) ハンガリー / ブダペスト	9.8.24 ~9.8.30 (7日間)
H09-I-10 小林長夫 (教授)	東北大学 大学院理学研究科 化学専攻	The 7 th International Beijing Conference and Exhibition on Instrumental Analyses (China Association on Instrumental Analysis 主催) 中国 / Shanghai(上海)	9.10.7 ~9.10.18 (12日間)
H09-I-11 赤澤正道 (助教授)	北海道大学 大学院工学研究科 電子情報工学専攻	1997 International Conference on Simulation of Semiconductor Processes and Devices (米国電気電子学会(IEEE)/電子デバ イスソサエティ 主催) アメリカ合衆国 / ボストン	9.9.7 ~9.9.11 (5日間)
H09-I-14 新家光雄 (教授)	豊橋技術科学大学 工学部 生産システム工学系	非航空機用チタン合金に関するシ ンポジウム (TMS: Mineral, Metals and Materials Society 主催) アメリカ合衆国 / San Antonio(Texas)	10.2.15 ~10.2.20 (6日間)
H09-I-15 李春飛 (特別研究員)	科学技術庁 無機材質研究所	International Symposium on Atomic Level Characterization for Application to New Materials and Devices (米国 Microbeam Analysis Society/ 日本学術振興会マイクロビームアナ リシス第141委員会 主催) アメリカ合衆国 /Wailea(Hawaii)	9.11.22 ~9.11.29 (8日間)
H09-I-16 トワチ・ フェリド (助手)	名古屋工業大学 工学部 電気情報工学科	HITEN '97: The 2 nd European Conference on High Tempera- ture Electronics (The Commission of the European Communities Under the EC Networks of Excellence Programme 主催) イギリス / Manchester	9.9.12 ~9.9.19 (8日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H09-I-18 大野隆央 (室長)	科学技術庁 金属材料技術研究所 計算材料研究部	第24回半導体物理国際会議 (純粋・応用物理国際連合 主催) イスラエル / エルサレム	10.7.31 ～10.8.9 (10日間)
H09-I-20 蔵之内真一 (助手)	豊橋技術科学大学 技術開発センター	The 2 nd World Conference and Exhibition on Photovoltaic Solar Energy Conversion (WIP-Munich 主催) オーストリア / Vienna	10.7.4 ～10.7.13 (10日間)
H09-I-21 内藤正路 (助手)	九州工業大学 工学部 電気工学科	The 9 th International Conference on Solid Films and Surfaces (ICSFS-9 実行委員会 主催) デンマーク / コペンハーゲン	10.7.5 ～10.7.13 (9日間)
H09-I-22 佐藤明 (助手)	千葉大学 工学部 機械工学科	World Congress on Particle Technology 3 / The 3 rd Biennial Particle Technology Forum of the AIChE (IChemE 主催) イギリス / Brighton	10.7.6 ～10.7.10 (5日間)
H09-I-27 岡田至崇 (講師)	筑波大学 物質工学系	1998 Spring Meeting of the Materials Research Society (1998年 春季米国 材料学会会議) (上記学会主催) アメリカ合衆国 / San Francisco	10.4.12 ～10.4.19 (8日間)
H09-I-29 渡會仁 (教授)	大阪大学 大学院理学研究科 化学専攻	第193回電気化学協会シンポジ ウム (Liquid-Liquid Interfaces) (アメリカ電気化学協会 主催) アメリカ合衆国 / San Diego	10.5.2 ～10.5.10 (9日間)
H09-I-30 香川明男 (助教授)	長崎大学 工学部 材料工学科	国際鋳物会議 (WFC63) (63 rd World Foundry Congress) (上記 WFC63 組織委員会 主催) ハンガリー / ブダペスト	10.9.11 ～10.9.28 (18日間)

平成10年度

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H10-I-01 松下純一 (講師)	東海大学 工学部 工業化学科	高性能セラミックスに関する 国際会議 (The International Conference on High- Performance Ceramics) (The Chinese Ceramic Society 主催) 中華人民共和国 / Beijing	10.10.31 ～10.11.3 (4日間)
H10-I-02 谷垣勝己 (教授)	大阪市立大学 理学部 物質科学科	I W E P N M '99 (International Winterschool on Electric Properties of Novel Materials) (Institute of Materials Physics, University of Wien 主催) オーストリア	11.2.21 ～11.3.8 (16日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H10-I-04 土谷 浩一 (講師)	豊橋技術科学大学 工学部 生産システム工学	マルテンサイト変態に関する 国際会議 (ICOMAT-98) (上記国際会議実行委員会 主催) アルゼンチン / バリローチェ	10.12.5 ~10.12.13 (8日間)
H10-I-05 立花 明知 (教授)	京都大学 大学院工学研究科 機械物理工学専攻 (教授 46歳)	アメリカ化学会 第50回 南東地区大会 (ロバート G.バル博士記念国際量子化学 シンポジウム) (アメリカ化学会 主催) アメリカ合衆国 / ラーレー	10.11.3 ~10.11.11 (9日間)
H10-I-06 大久保 達也 (助教授)	東京大学 大学院工学研究科 化学システム工学専攻	米国化学工学会 1998 年会 (上記学会 主催) アメリカ合衆国 / マイアミビーチ	10.11.14 ~10.11.25 (12日間)
H10-I-08 江川 孝志 (助教授)	名古屋工業大学 極微構造デバイス 研究センター	The 5 th IUMRS International Conference in Asia (IUMRS-ICA 98) (Materials Research Society of India / The International Union of Materials Research Societies 主催) インド / バンガロール	10.10.11 ~10.10.19 (9日間)
H10-I-10 藤井 達生 (講師)	岡山大学 工学部 精密応用化学科	材料科学会(MRS) 1998 年秋季講 演大会 (材料科学会(MRS) 主催) アメリカ合衆国 / マサチューセッツ州ボストン	10.11.29 ~10.12.6 (8日間)
H10-I-11 早川 聡 (助手)	岡山大学 工学部 生物機能工学科	BIOCERAMICS 11 (International Symposium on Ceramics in Medicine) (ISCM: International Society for Ceramics in Medicine 主催) アメリカ合衆国 / ニューヨーク	10.11.4 ~10.11.12 (9日間)
H10-I-12 波多野 毅 (グループリーダー)	科学技術庁 金属材料技術研究所 第1研究グループ	第22回 低温物理国際会議 (純粋応用物理国際連合 主催) フィンランド / エスポー・ヘルシンキ	11.7.27 ~11.8.13 (18日間)
H10-I-13 後藤 真宏 (助教授)	大分大学 工学部 生産システム工学科	8 th International Conference on Mechanical Behaviour of Materials (ICM 8) (ICM 国際委員会 主催) カナダ / British Columbia	11.5.16 ~11.5.24 (9日間)
H10-I-14 福田 孝之 (助教授)	佐世保工業 高等専門学校 機械工学科	8 th International Conference on Mechanical Behaviour of Materials (ICM 8) (ICM 国際委員会 主催) カナダ / British Columbia	11.5.15 ~11.5.23 (9日間)
H10-I-15 吉野 賢二 (助手)	宮崎大学 工学部 電気電子工学科	11 th American Conference on Crystal Growth & Epitaxy (アメリカ結晶成長学会 主催) アメリカ合衆国 / Arizona	11.7.31 ~11.8.8 (9日間)

氏名・職名	所属機関	研究集会	出張期間
H10-I-19 塩盛 弘一郎 (助手)	宮崎大学 工学部 物質環境化学科	国際溶媒抽出学会 (International Solvent Extraction Conference) スペイン / バルセロナ	11.7.11 ～11.7.16 (6日間)
H10-I-20 伊東 千尋 (助手)	名古屋大学 大学院理学研究科 物質理学専攻	太陽エネルギー蓄積と応用光工学(SOLAR'99) 環境光化学国際ワークショップ(ENPHO'99) (アンシャムス大学 主催) エジプト / カイロ	11.3.29 ～11.4.6 (9日間)
H10-I-21 佐野 庸治 (助教授)	北陸先端科学技術 大学院大学 材料科学研究科	第1回ヨーロッパゼオライト会議 (ハンガリーゼオライト学会主催) ハンガリー / エグリ	11.8.31 ～11.9.5 (6日間)
H10-I-22 増田 淳 (助手)	北陸先端科学技術 大学院大学 材料科学研究科 物性科学専攻	第18回アモルファスならびに 微結晶半導体国際会議 (上記国際会議実行委員会主催) アメリカ合衆国 / ユタ州スノーバード	11.8.21 ～11.8.28 (8日間)

泉科学技術振興財団 10 年の歩み ～財団の運営と事業活動～

平成 12 年 12 月 12 日 発行

監 修 財団法人 泉科学技術振興財団

発 行 財団法人 泉科学技術振興財団

〒531-0072 大阪市北区豊崎 3 丁目 9 番 7 号

電話 06-6373-1811

